

平成30年度

# 研修集録

第24号

秋田県立花輪高等学校

## 卷頭言

### 「ALの先にあるもの～PART2」

校長 片岡俊仁

昨年度の巻頭言では、「ALは授業方法の一つにすぎない、しかし極めて重要で、主要であり、効果が高い方法である。それに（講義式などの）従来の指導方法の良さも大切にし、上手に組み合わせていく方法を編み出すことが必要である。」と述べたが、「上手な組み合わせ」で大変に参考になる取組があったので紹介する。（定例職員会議でも紹介しましたが）

茨城県立並木中等教育学校での次の2つの取組である。

(1) 「AL指数」・・・授業の在り方について職員間でALか講義かという二項対立的な議論になっている課題に対応して考案した。ALの実施率を示す指標で、例えば50分授業でAL5分間なら「AL10」、AL10分間なら「AL20」となる。週5時間の授業でAL1時間の場合も「AL20」である。ALの実施というと、自分の授業を180°変えなくてはいけないと考える教師がいるが、高校の指導内容の多さ、教科書の分厚さを考えると、従来の知識伝達型の講義も必要である。

(2) 「R80」・・・「ペアワークやグループワークだけで向上するのか」という職員の疑問に対応して考案した。RはReflectionとRestructureのRである。授業の最後に内容を振り返って学びを再構築し、80字以内で書くというもので、必ず2文で書き、接続詞で結ぶというのが特徴である。「思考力・判断力・表現力」とともに「論理力」を育成し、ALを確かな学力向上につなげることを目指している。

この学校ではALの課題として、上記の2つに加え、ALが形だけになっていることも挙げている。本校同様、ALに先進的に取り組んできた高校だけに、共感できる。大変参考になる取組であり、(2)は本校の今年度の指導主事訪問一ヶ月前課題の具体的取組「振り返りの時間における、次の学びに向かうことができる指導内容の工夫」でも参考にしたい取組である。

文部科学省も「主体的・対話的で深い学び」は進めるも、毎時間ALを行うことには懐疑的であり、講義式も否定しておらず（高等学校学習指導要領解説総則編p64）、「生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものである」としている。

ただし、当然のことながら、講義式授業でも、昔の大学教授のマスプロ授業のような100%学ぶ側が受け身の授業が認められるものではない。伝統的教授にも工夫は必要だ。小刻みに伝えて途中でペアで質問し合う工夫とかは当然施されなければならない。知識伝達の点で今後主流になるのは学習アプリの活用であろう。教室ではAL主体で、教室外ではEducation（教育）とTechnology（テクノロジー）を組み合わせたEdTech（エドテック）を活用して効果的に知識を伝達する。（あるいはAL自体もこれで可能になるだろう。だとしたら教師の役割は？）EdTechの可能性については紙幅が尽きたのでまた別の機会に触れたい。

## 目 次

【卷頭言】	校 長 片岡 俊仁
【センター研修】	
初任者研修	数学科 佐藤 俊… 1
5年経験者研修	地理歴史・公民科 畑山 翔太… 3 英語科 奥畠屋景子… 7
中堅教諭等資質向上研修	国語科 高橋可奈子… 10
英語フォローアップ研修	英語科 奥畠屋景子… 22
実践的指導力向上研修	地理歴史・公民科 高田 英一… 27
情報教育推進研修	商業・情報科 工藤由紀子… 33
【前期授業研修会 資料】	地理歴史・公民科 佐藤 敦史… 36
【後期授業研修会】	国語科 高橋可奈子… 40 安保 美沙… 41
	地理歴史・公民科 畑山 翔太… 46 高田 英一… 49
【教員派遣研修】	
第28回東北大学教育フォーラム「主体性」とは何だろうか —大学入試における評価とその限界への挑戦—	数学科 黒澤 恵一… 52
第12回キャリア教育推進フォーラムに参加して	国語科 安保 美沙… 54 数学科 佐藤 俊… 56

# 初任者研修を振り返って

数学 佐藤 俊

## 1. はじめに

私の教員生活のスタートであった平成30年度が間もなく終わろうとしている。今年度は多くの方々に支えられ、自分自身を大きく成長させられた1年であった。この1年間の学びをここに振り返ることで、研修に携わっていただいた方々に感謝の意を表すとともに、今後の自らのさらなる成長に資するための記録としたい。

## 2. 校内研修

### (1) 一般研修

片岡校長先生、石上教頭先生、石井事務長、研修主任の石川先生、指導担当の黒澤先生、各分掌主任の先生方から、非常に丁寧に御指導いただいた。教育公務員としての心構えに始まり、学校の運営体制、分掌業務の具体的な内容、生徒への指導の工夫など、多くの事を学ばせていただいた。また、それらの学んだ事柄を日々の業務や指導の中で活用し実践的に理解を深められた。御多忙の中にも関わらず御協力いただいた先生方に深く感謝申し上げるとともに、今後も研鑽を続けていきたい。

### (2) 教科研修（数学）

教科指導員の黒澤先生をはじめ、数学科の先生方にはお忙しい中授業を参観していただき多くのアドバイスを頂いた。特に花輪高校の推し進めるA L型の授業を通して生徒の力を育む、という点に関して自分の授業を大きく改善できたと感じている。また他教科の授業も数多く見学させていただき、自分の授業改善に活かすべき点を学ぶことができた。多くの先生方の御協力を忘れずに、今後も授業改善に努めていきたい。

## 3. 校外研修

### (1) 総合学習センター主催の研修

期	期 日	研 修 内 容	
I	4／18	・教育公務員の服務 ・授業づくりの基本	・学校組織の一員として①－組織原則の理解－ ・授業で取り組む情報教育①
II	5／23	・教科指導の現状と課題	・学習指導要領の要点
III	6／13	・教科における基本的な指導技術と授業展開 ・教科における評価の内容と方法①	・教科指導計画の作成② ・キャリア教育の充実
IV	8／7	・安全教育と応急手当 ・生きる力を育む総合的な学習の時間	・教員のメンタルヘルス ・豊かな心を育む道徳教育
	8／8	・学校における教育相談 ・授業で取り組む情報教育②	・いじめ等の問題行動や不登校の理解
V	9／5	・中学校との関連を踏まえた授業づくり	（中学校初任者と合同）
VI	9／13	・授業実践研修（於：秋田県立花輪高等学校）	

VII	10 / 10	・教科における評価の内容と方法② ・教材研究と教材開発の工夫
VIII	10 / 31	・特別な支援を要する児童生徒の理解と支援① ・特別な支援を要する児童生徒の理解と支援② ・授業展開の方法と実際
IX	1 / 9	・いじめや不登校への具体的な対応 ・特別活動の理解とホームルーム経営 ・学校組織の一員として②－目標管理－

## ■ 感想

センター研修においては主に、教科指導と生徒指導両面の指導力向上、学校運営のための基本的な理念と具体的方法の習得を目指して行われた。研修は講義だけでなく初任者同士での討議や演習も数多く行われ、体験的に学びを深められた。またこれまでの教育の在り方やその変遷を知ることで、教員に求められる姿が時代によって大きく変化していることも実感できた。今後も常に学び続ける姿勢を忘れず、自分を変化・成長させ続けていきたい。

## (2) 高校教育課主催の研修

期日	研修内容	開催場所
4 / 2	教職基礎	秋田県庁第二庁舎
6 / 20	授業研修 A	総合教育センター
8 / 1・2	PA 研修	岩城少年自然の家
10 / 17	授業研修 B	秋田県立明徳館高等学校
11 / 14	授業研修 C	秋田県立秋田中央高等学校
11 / 28	特別支援学校訪問	秋田県立比内支援学校

## ■ 感想

高校教育課主催の研修は、開催場所の特性を活かした講座が多く、一回毎の講座それぞれに独自の色合いを感じることがしばしばであった。その中でも特に強く印象に残っているのは、授業研修 B で行われた「生活体験発表会」の見学である。そこでは、県内の定時制・通信制高校に在籍している生徒が、学校内外での生活についての発表を行っていた。多くの生徒が生活環境や人間関係に様々な悩みを抱えていることに衝撃を受けるとともに、生徒の多様性や生徒各々が抱える背景を把握することの重要性を痛感した。生徒一人一人を理解することが全ての教育活動の土台になっていることを忘れずに、今後も生徒理解に努めたいと思う。

## 4. おわりに

私が初任者研修を通じて多くの事を学べたのは、先に述べたように多くの方々の支えがあったからだと感じている。特に校長先生をはじめ、花輪高校の先生方には一年間強力にサポートしていただいた。次年度以降は初任者研修での学びを活かし、花輪高校の戦力となれるよう日々努力していく所存である。

# 高等学校教職5年経験者研修講座を終えて

地歴公民科 畠山 翔太

## 1. はじめに

これまでの5年間の教職をまとめ、これから教職につなげるための研修として取り組んだ。研修自体は少なかったが、教科指導や生徒指導についてこれまでを振り返るうえで非常に有意義な研修となった。

## 2. 高等学校教職5年経験者研修講座Ⅰ期 6月15日(金)

### (1) 講義・演習 「生徒理解と人間関係作り」

生徒理解の視点とより良い人間関係について学んだ。生徒の言動や反応の背景にある原因などを知ろうとすること、それを踏まえた対応をとることが重要であるということであった。目に見える行動だけで判断するのではなく、ときには慎重な対応も必要であると感じた。

### (2) 講義・演習 「学校組織の一員として -マネジメントの視点-」

紙とペンを用いて自校のPRをするという活動に取り組んだ。普段何気なく見ていた教育目標やキャリア教育の目標などをつくりあげることの難しさがよく分かった。活動自体は楽しく過ごしたが、活動からは学校全体の教育活動を把握することの難しさと重要性が感じられた。

### (3) 講義・協議・演習 「生徒の実態を踏まえた授業改善」

事前レポートをもとに、日ごろの教科指導における課題や取り組みなどについて意見交換を行った。指導主事の先生からは新しい学習指導要領での新たな社会科の科目について学び、今から取り入れられる改善方法などを御教授いただいた。

## 3. 高等学校教職5年経験者研修講座Ⅱ期 9月4日(火)

### (1) 講義・演習 「教師が使えるカウンセリングの技法」

話の聞き方や反応が変わることで生徒の受け取り方が大きく変わることを学んだ。カウンセリングの専門家であっても、定期的に訓練をしないといつ良くない反応をしてしまうということであったので、常に意識して生徒と関わることが重要だと感じた。

### (2) 講義・協議・演習 「生徒の実態を踏まえた授業改善②」

事前に自校での授業を撮影し、それをもとに研修を行った。様々な教科を交えての協議であったが、協議自体を自分たちで進めながら研修を行うことは非常に大変であった。しかしその分有意義で充実した研修が行われたと感じる。他教科の先生方からの指摘は新鮮で、テーマの「言語活動の効果的な位置づけ」に関しても、他教科の参観から新たな発見が得られた。

## 4. 感想

この研修を通して、教科指導だけではなく、教職員がもつさまざまな面の能力を向上させる必要性があることが分かった。組織の一員として、また生徒の前に立つ一人の教員として、求められることに対応できるよう日々精進していきたい。

## 第2学年A組 地理歴史科（世界史A）学習指導案

日 時：平成30年8月23日（木曜日）2校時  
指導者：秋田県立花輪高等学校 教諭 畑山 翔太  
教科書：『高等学校世界史A』清水書院

### 1 単元名 第2編 第3章 ヨーロッパの再編と太平洋世界 1節 ヨーロッパの新時代

#### 2 単元の目標

- ・ヨーロッパにおける時代の変容について理解するとともに、他の地域に与えた影響や関係性の変化について考察することができる。  
(1) 世界全体の大きな変容について、出来事の背景や影響について関心を持ち、意欲的に活動に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）  
(2) ヨーロッパ社会及び世界のつながりの変容について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果について自分の言葉でまとめ、表現することができる。（思考・判断・表現）  
(3) 資料から有用な情報を適切に読み取り、ヨーロッパ社会の変容についてまとめることができる。  
(資料活用の技能)  
(4) 時代の展開を基礎知識として身につけ、その特徴や前後の時代との関係性について理解することができる。（知識・理解）

#### 3 指導上の立場

##### ・単元観

この単元は、大航海時代・ルネサンス・宗教改革といった重要な出来事の展開を基礎として、ヨーロッパ社会や世界全体のつながりの変容について学習するところとなる。これまで学習した時代との違いを考えることができ、また多くの人物の業績に触れることで、出来事の背景や影響を多角的にとらえることができる単元である。

##### ・生徒観

第2学年A組は男子20名、女子13名の、合計33名のクラスである。大半が就職及び公務員を志望している。授業に対する意欲や活気があり、聞かれたことに対して発言できる生徒が多い。世界史の内容に関しては苦手意識を持つ生徒が多いが、理解しようと取り組む姿勢がみられる。

##### ・指導観

これまでに学習してきた地域ごとの歴史から、地域同士のつながりが強くなった世界の状況を学ぶことで、現代につながる世界の一体化について理解させたい。また、当時の人々がどのような考え方を持っていったかに触れ、また自分の意見を持たせて他者と共有することで、意見の多様性やそれを受け入れることの重要性に気付かせたい。

#### 4 単元の指導計画

##### 1節 ヨーロッパの新時代（全4時間）

- 17 新航路の開拓とアメリカの植民地化・・・2時間（本時1／2）  
18 ルネサンスと宗教改革・・・・・・・・3時間

#### 5 本時の学習活動

##### ・本時の学習目標

大航海時代においてスペインとポルトガルがどのような目的を持って海外での活動を行い、どのような結果となったのかを、それぞれの国の立場を踏まえて考察することができる。（B 思考・判断・表現）

・本時のねらい

大航海時代の展開を理解するとともに、各航海者の業績に合わせてスペインとポルトガルにおける政策の違いについて考察することで、次時で取り扱う商業革命と価格革命につながりを持たせたい。

・指導過程（50分）

評価の観点【A】関心・意欲・態度 【B】思考・判断・表現 【C】資料活用の技能 【D】知識・理解

時間	学習内容・活動	指導上の留意点・教師の支援	評価の観点・方法
導入 5分	大航海時代のはじまり ・大航海時代の背景について理解する。 ・本時の目標を確認する。	・これまでの学習事項を活用し、つながりをもたらせる。 ・特に香辛料の重要性について説明し、次の活動につなげる。	
展開 35分	大航海時代の展開 ・教科書や資料集をもとにプリントの年表を完成させ、全体で確認する。 (12分)  ＜ペア活動＞ ・スペインとポルトガルの海外進出について、その目的を考察する。 (プリント①、② 10分)  ＜グループ活動＞ ・それぞれのペアで考えた内容を発表しあい、スペイン・ポルトガルのそれぞれの政策を比較する。(5分)  ・海外進出の結果について自分の考えをまとめ、グループで共有する。 (プリント③ 5分)  ＜全体活動（共有）＞ ・各グループの代表者が共有した結果を発表する。(3分)	・確認の際は世界地図を提示し、それぞれの航海者の航路を図示して補足説明を行う。  ・3～4名のグループをスペイン側・ポルトガル側に分け、ペアで活動させる。 ・苦労しているグループには出来事の流れを踏まえて考えさせる。  ・特にそれぞれの国が重視した地域の違いとその理由について考えさせる。  ・共有の際は口頭で説明するようにさせる。	・他者の意見を聞き、メモを取ることができる。【A】  ・これまでの活動内容から海外進出についての考えをまとめて表現することができる。【B】
まとめ 10分	・学習内容を振り返り、各自でプリントにまとめる。(5分) ・次時へのつながりを確認する。(5分)	・目標につながる題を提示し、学習内容を簡潔にまとめる。 ・「商業革命」「価格革命」のキーワードを提示する。	・学習した内容を簡潔に自分の言葉でまとめることができる。【B】

・評価の観点

評価の観点	評価規準		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる[A]	おおむね満足できる[B]	
思考・判断・表現	・学習した内容をもとに、それぞれの国の立場や政策の違いを比較してまとめることができる。	・学習した内容をもとに、担当した国の政策についてまとめることができる。	「目的地はどこだったか」「最終的にどこに行きついたか」と考える道筋を提示し、学習活動に取り組みやすくする。

## A-11 高等学校教職5年経験者研修講座Ⅰ期「6月15日(金)」持參資料

秋田県立花輪高等学校 地歴公民科 畑山翔太

### 教科指導に関するレポート

#### ① 自校の生徒の実態

本校の生徒は全体的に素直で真面目であり、学習や部活動、学校行事等に熱心に取り組むことができる。入学直後から進路への意識を高めさせる手立てがなされているためか、自らの進路目標を決定し、そのために必要な活動に積極的に取り組むことができている。しかし、教員をはじめとして周囲からの働きかけを待つ姿勢をとる生徒が多く、指示されての行動は積極的であるが自発的ではなく、「やらされている」といった姿勢がみられる。

学習に関しては、アクティブラーニング型授業を日常的に受けており、グループ活動や自分の意見を発表することに慣れている生徒が多い。また、教科の内容について高い興味を示す生徒も多い。しかし、学力としては決して高いとは言えず、特に地歴科目については模試やセンター試験の平均を下回っている状況である。活動には積極的であるが、知識として定着していないという印象を強く受ける。地歴公民科の授業においてもアクティブラーニング型授業は取り入れられているが、特にB科目については講義形式の授業も行われており、そこに苦手意識の強い生徒が多いと考えられる。

#### ② テーマ ア 「言語活動を効果的に位置付けた授業展開についての工夫と実践上の課題」

##### (1) 工夫

昨年度は講義形式の授業の中に、生徒が自ら内容をまとめて説明するという形式を何度も行った。発表の際には板書の他、K P法等で説明を行わせた。また、講義形式の中でも復習の時間を取り入れ、ペアで教えあいながら取り組ませるなどの工夫を行っている。特にB科目を受講している生徒に対しては、内容のまとめの際に論述形式をとるようにしており、「何を聞かれているのか、聞かれていることに対してどのように答えるか」という視点から振り返ることで、思考力を高めるとともに二次試験への対策としている。

##### (2) 実践上の課題

実践している活動がまだまだ生徒の主体的な学びに結びついてないということを強く感じている。  
①で述べたとおり、生徒は自分の意見を発表することに慣れているため、発表することには抵抗感なく取り組む姿が見られた。しかし、他者の発表を聞いてメモを取る、または質問するなどのことができない生徒が多く、非常に形式的な発表になってしまいがちである。

重視しなければならないと感じているのが、目標と学習内容の明確化である。活動や復習等において、「この時間は何をするのか」が理解できなければ、他者に教える・質問するなどの行動がとれず活動が停滞してしまう。具体的な目標を設定し、その達成のための活動であるということを明示して活動させたい。

# 高等学校教職5年経験者研修講座を終えて

英語科 奥畠屋 景子

## 1. はじめに

早いもので教職5年が経過した。普段生徒と接していて抱く疑問や、悩みを解決することにつながるものと期待し、研修に臨んだ。

## 2. 高等学校教職5年経験者研修講座Ⅰ期 6月15日(金)

### (1) 講義・演習 「生徒理解と人間関係作り」

不登校の捉え方として、不登校は家庭や社会の問題という側面があること、学校への不適応は社会への不適応のサインであることが印象に残り、教員としてタイミングを逃さず向き合いたいと思った。

### (2) 講義・演習 「学校組織の一員として - マネジメントの視点 - 」

学校プレゼンシートを保護者向けに作成した。この時間を通して学校の目指すべき方向性を統合的に把握するよい機会となった。改めて校長先生の花高IDのアイデアに感心した。

### (3) 講義・協議・演習 「生徒の実態を踏まえた授業改善」

最後の授業改善では「言語活動」をめぐり普段からもやもやと思っていたことが整理され、考えが明確になった。自分の関心事は「即興性のある言語活動」だ。即興性のある言語活動をテーマにしようと決めた。

## 3. 高等学校教職5年経験者研修講座Ⅱ期 9月4日(火)

### (1) 講義・演習 「教師が使えるカウンセリングの技法」

私は1つの仮説しか立てずに生徒と向き合い、その仮説が否定された瞬間こちらの余裕が無くなっていたことに気付いた。このほか面談で使える技法として、negative発言を繰り返す生徒に「例外的にうまくいったときはどんなとき? どんなことをしたらそうなったの?」と質問することで、小さな変化を起こすことが可能ということを学んだ。

### (2) 講義・協議・演習 「生徒の実態を踏まえた授業改善②」

どの教科においても目標、手立て、評価の仕方などは共通で、他教科であっても授業を評価することができた。総じてどの教科でも「どうやってこの目標が達成されたのか評価するのですか?」ということが課題に挙がっていた。何をどのようにどこまで評価するのかを明確にするとの難しさを感じた。

## 4. 感想

発達障害の捉え方として特性の有無というよりも濃淡の問題だと知ったことは大きかった。また生徒の言動に関して仮説を2つ以上持ち、そうすることで関わり方に余裕が生まれるという話が印象に残った。「○○かもしれないし、△△かもしれない」と最低2つは考えるよう心掛けたい。日頃の疑問や悩みを解決するヒントになり、大変有難い研修であった。

## 「コミュニケーション英語Ⅲ」学習指導案

秋田県立花輪高等学校  
教諭 奥羽屋景子

### 1. 日 時

平成30年7月9日（月） 第5校時（13：30～14：20）

### 2. 学 級

第3学年C組（29名 男子7名 女子22名）

### 3. 学級観

落ち着きのあるクラスであり活動にも一生懸命取り組むことができる。これまで自分の意見や思いを伝え合う活動を行ってきたが本レッスンではよりリアルなコミュニケーション活動として「言い換え」や「即興性」に重点を置いた。

### 4. 教 材

教科書 PRO-VISION English CommunicationⅢ（桐原書店）  
Lesson3 Running Out of Water

### 5. 単元の目標

水にまつわる問題や実態、ウォーターフットプリント、水にかかわる最新技術や水不足で苦しんでいる国々の取り組みなどを学びながら、水に関する知識を増やすと同時に、水を大切にする意識を培わせたい。

### 6. 単元計画（総時間10時間）

1・2時間目…Part1（内容把握・口頭要約） 3・4時間目…Part2（内容把握・口頭要約）  
5・6時間目…Part3（内容把握・口頭要約） 7・8時間目…Part4（内容把握・口頭要約）  
9時間目…水の思い出について考え、メモを作成する。  
10時間目…水の思い出について伝え合う。【本時】

### 7. 本時の学習

#### （1）目標

ア. パートナーの水の思い出をメモを見ながら自分なりの英語に言い換えて、グループの生徒に英語で伝えることができる。（即興で簡単な英語を話すことに慣れる）  
イ. 即興で英語で質問したり答えることができる。（予測不可能なやりとりへの対応）

#### （2）本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
5	1. Warm-Up —Free Conversation	・「水」について思いつくことを自由にペアで伝え合う。	・例を見せる。 ・明るい教室の雰囲気を作る。	・大きな声で活動的に行っているか。	活動の観察
10	2. Check Today's Goal	・パートナーの水の思い出をグループの人々に言い換えて伝えることができる。 ・発表後、即興で英語で質疑応答することができる。	・文章でなく、キーワードメモを見ながら伝えることを確認する。	・「言い換え」と「即興性」がテーマであることを伝える。	ワークシート

	3. Complete Memo for Their Speech	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表後、即興での英語の質疑応答があることを確認する。</li> <li>・「水の思い出」のスピーチメモを完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事な単語とそうでない単語を整理させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思い出を1つ挙げ、キーワードでメモを作ったか。</li> </ul>	
10	4. Share Their Stories -with pairs	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のやりとりのモデルを見る。(ALTとJTE)</li> <li>・ペアに各自の「水の思い出」をメモを見ながら伝える。聞き役の生徒はメモを取りながら聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞きながらキーワードをメモする姿を見せる。</li> <li>・相手に伝わるスピードや声量、簡単な英語で話すよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の目を見て、メモを見ながら英語で自らの思い出を伝えられたか。</li> <li>・聞きながら、メモを取ることができたか。</li> </ul>	活動の観察及びワークシート
20	5. Share Their Stories -in Groups  ↓ ( to the whole class)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で自分のパートナーの思い出をメモを見て紹介する。最後に質問やコメントをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手を意識し情報を整理して、簡単な英語に言い換えるように促す。</li> <li>・聞き手はコメント・質問等をするように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーカーはメモのみを見て、自分なりに言い換えて紹介できているか。</li> <li>・聞き手はメモを取りながら聞いているか。質問できたか。</li> </ul>	活動の観察
5	6. Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言い換えながら伝えあえたか、即興の質疑応答ができたか振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出するよう言う。</li> </ul>		ワークシート

## 7. 協議の視点

- (1)簡単な英語を話すことに慣れるため、「キーワードメモのみ」を活用しながら活動させた点。
- (2)聞き手を意識し伝え方を変えさせるため、自分なりに簡単な英語に「言い換え」をさせた点
- (3)即興性への足掛かりとして発表後に英語による「質疑応答」を入れた点

# 中堅教諭等資質向上研修講座(高等学校)のまとめ

秋田県総合教育センター

受講者番号	1	学校名	秋田県立花輪高等学校	氏名	高橋 可奈子
-------	---	-----	------------	----	--------

## 1 秋田県総合教育センター中堅教諭等資質向上研修講座を振り返って

I期	○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略 ○学校の危機管理 ○学校組織の一員として①リーダーシップ
II期	○多様な単元(題材)構想に基づく柔軟性のある授業展開 ○授業づくりと授業研究の実際
III期	○いじめの理解と対応 ○教育相談の考え方・進め方 ○気になる生徒の事例を通して具体的な対応の理解
IV期	○教育活動全体を通じたキャリア教育 ○学校全体で取り組む情報教育 ○豊かな自己形成に資する道徳教育の在り方
V期	○教育公務員の服務 ○学校組織の一員として②キャリアデザイナー ○これからの学校教育 ※この3つの内容は最終日に行います。

研修の目標「中堅教諭としての自覚や学校運営参画意識を高め、個々の能力、適性等に応じて必要な事項に関する資質の向上を図る」に基づき、1年間の研修講座を振り返り、特に印象深く考えさせられた内容や、さらに深めたいと感じた内容を中心にまとめてください。

III期で行われたいじめの理解、教育相談の考え方・進め方について、改めて初期対応の大切さを感じた。年々、多様な生徒が入学してくる中で、保護者の対応も以前とは全く違う対応を迫られるようになってきた。訴訟問題になる事例も全国的に見て増えてきており、現場でいち早くトラブルに対応した教員の初動と発言が、その後の問題解決を左右するといつても過言ではなく、生徒対応・保護者への対応を想定される最悪な事態を念頭に置き、リスクマネジメントの観点から対応することが必要である。

研修では、事例に対するロールプレイの手法によって、疑似体験したことが大変有意義であった。同じような経験年数の受講者であっても、事例に対する物事の見方・考え方・感じ方は異なり、また、ロールプレイによって立場を変えて考えたことでより一層、相違点に気づくことができた。

学級経営の中において、学級や学年の生徒間における意見の食い違いや誤解、そこから発展していく関係の悪化によるいじめなどのトラブルは、近年ではSNSの普及等により、トラブル発生時から幾つかの時間経過があり、当事者同士で解決できず、すっかりこじれきって修復が難しい状態になってしまってから、ようやく教員の知りうるトラブルとして生徒から相談されたり周囲からの情報提供などによって表面化したりすることが多い。

トラブル発生時に教員が介在するような問題行動や人間関係のこじれというというのは、ほとんど無くなっているように感じる。しかし、バーチャル世界での関係悪化が現実世界の人間関係を悪化させるトラブルは今後も増え続けていく。そうならないためにも、せめて学級担任として、どのような状況下においても「他者意識と思いやりの心」を持ち、SNS等の発言もそれを読む他者がどのように感じる言葉であるのか、ネチケットを含むマナー等は我々教員が日々の生徒指導の中でできることでもある。トラブルが起きてしまう前の予防対策を継続的に指導していくことが、何よりも生徒達の健全育成に繋がっていくものと確信できた。

## 2 今後5年間を見据えた研修計画について

秋田県教員育成指標に示された求められる資質・能力の向上のために、研修の目標、自身の強みや課題と照らし合わせて、今後5年間を見据えた研修計画を次に示してください。目標と取り組みたい事項は、なるべく具体的に記入してください。

今後5年間を見据えた研修計画				
	本県の教育課題への対応	マネジメント能力	生徒指導力	教科等指導力
目標	少子化による生徒数の減少とインクルーシブ教育への理解と対応できるための研修に参加し、自らのスキルアップと伝達指導が行えるようにする。	地域の学校として求められていることを踏まえ、文化・伝統を継承し、新たな産業地域づくりに貢献できる生徒の育成に取り組む。	目先の優しさではなく、生徒自身が社会に出て行った時に、社会人として通用する人物となるために必要なことが出来るよう、将来を見据えた本当の優しさを持って指導する。	AL型授業を通して、自らの課題に対して探究を深め、問題解決できる資質・能力を有する生徒を育成する。
取り組みたい事項	生徒が多様化する中で、特別支援教育への理解と、その生徒に応じた個別の指導が求められている。高等学校における取り組みの中で、生徒の要望に添い、有益な教育支援のための研修を受け、他校種の教員等と連携し、伝達研修が行えるようにスキルアップを図る。	地域の持つ力を活用し、地域に根ざした文化・伝統の継承者として、技術等の保存だけではなく、産業や地域の特産物を活かした新たなものづくりを提案し、商品化に繋げるためのプレゼンテーション能力や公募等に応募できる企画力等を向上させ、地域貢献に繋げたい。	生徒指導の基本は愛である。目先の優しさは本当の優しさではなく、問題の先送りに過ぎないと感じる。そのためにも、言葉を尽くして生徒と保護者に説明することが必要であり、生徒が納得し、行動に移せるようになることが必須である。言葉は柔らかく、優しく、行動は自らを律していく強さと折れない心で粘り強く声掛けをしていきたい。	振り返りシートの活用により、生徒自身が自分の言葉で振り返りを文章で表現し、次課題に対して探求するため、自ら目標を立て、課題に取り組み、達成感を得て更なる目標を立て、継続的に挑戦し続けられるよう、支援し、生徒の理解度を把握した上で、次の授業の準備を行う。

受講者番号	1	学校名	秋田県立花輪高等学校	氏名	高橋 可奈子
-------	---	-----	------------	----	--------

## 選 択 研 修 計 画 書

研修教員 氏 名	高橋可奈子	所属校	秋田県立花輪高等学校	所属校 連絡先	TEL 0186-23-2126 FAX 0186-23-2137
学びたい こ と	秋田県に焦点を当てたふるさとキャリア教育について、新しい視点や展開方法を捉えるきっかけを学ぶことやAIによる既存の仕事が半減してゆく中で、仕事を創造していく方法等を個人で起業されている方の所で学ぶことで自らの視野を広げたい。				
研修先	月と山社	依頼状 (礼状) 送付先	〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字下小路51 番地8 TEL 090-4609-0973		
代表者名	木村 芳兼	代表者の 正式職名	代表		
研修担当者名	木村 芳兼	研修担当者の 部・課名	ディレクター		
月日(曜)	研修時間	内 容			
第1日 8月16日 (金)	9:00 ~12:30 12:30~13:15 13:15 ~17:00	武蔵野大学生の長期フィールドスタディズの現地スタッフ業務。 鹿角に今あるものとないものを融合させたお土産品の企画書作成。			
第2日 8月17日 (土)	9:00 ~12:30 12:30~13:15 13:15 ~17:00	武蔵野大学生の長期フィールドスタディズの現地スタッフ業務。 市内2カ所の道の駅での現地調査結果をもとに、人と物の交流、道の駅利用者へのアンケート実施とその結果について、大学生が調査で感じたことを学生同士で共有しあい、最後の研究成果発表会につながるキーワードを見つけ出す付箋を使ったWSへの参加と助言。			
第3日 9月10日 (月)	10:00 ~12:30 12:30~13:30 13:30 ~17:00	武蔵野大学生の長期フィールドスタディズの現地スタッフ業務。 15時からの鹿角市長を招待した研究成果発表会に向けたリハーサルでの発表への助言。発表者それぞれに対する講評を付箋に記し、学生に渡した。全体の成果発表会では発表を聞き、その上で質問を行った。会場設営と撤収作業。			

## 選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田県立花輪高等学校	職・氏名	教 諭 高 橋 可奈子
研 修 先	月と山社		
研 修 期 間	平成30年8月16日（水）～平成30年8月17日（木） 平成30年9月10日（月）～平成30年9月10日（月）		

### 1 研修の概要

- ・武蔵野大学生のフィールドワークの現地対応スタッフ業務。
- ・地元にあるものを活かして地元にないものを創りだすブランディング（地域にある資源の再定義・価値の付け方）と資源選定の目線・視点を養い、魅力を体感するためにお土産品を企画プロデュース、プレゼンテーションをする。
- ・先人顕彰館視察。戊辰戦争特別展、内藤湖南他先人の偉業に触れる。
- ・きりたんぽFMのラジオ収録見学。社会福祉法人愛生会の活動を知る。
- ・武蔵野大学生のフィールドワーク、研究成果発表プレゼンテーションの聴講、コメント。

### 2 研修の成果

8月13日から9月10日までの期間、武蔵野大学生が鹿角市に大学の実地研修としてフィールドワークに鹿角市を訪れており、その学生を現地で受け入れて研修のプログラムを提供する現地対応業務のスタッフとして3日間の研修を行った。

武蔵野大学の学生がオリエンテーションを終え、現地調査に入った2日目と3日目の調査を終えてのアウトプットやそれを踏まえたワークショップに同席し、関東圏から来た学生4名、秋田市出身の学生1名の計5名に対して、鹿角に来て間もない時期での現在の感想を基に、各自の調査結果とその調査に協力してくれた人の傾向分析を学生同士で意見を出し合い、共有を図り、最終的なグループでの研究調査結果のプレゼンテーションに繋がるキーワードを見つけ出すワークショップを補佐した。適宜、必要と思われる所で質問をしたり、考えさせたりと思考を深める手助けができたようだ。

また、地元にあるものを活かして、地元にないものを創り出すブランディングの研修として、新たにここにしかない、ここでしか買えないような土産物の企画書を作成し、「道の駅あんとらあ」の観光プロデュースを手がける清水諒太さんへ企画のプレゼンテーションを行った。現在あるものとまだないものを掛け合わせ、新たなものを創り出す作業は、授業の中での教材をどのように使って授業をデザインしていくか、生徒の適性を把握してキャリアデザインをする上でどのようにプロデュースし、仕掛けていくかなどに通じるものがあった。商品のコンセプトや仕様、パッケージ、ラッピング素材、販売方法、売り上げ管理、商品を買う人と受け取った人の反応などを推察し、企画として仕掛けていく楽しさがあり、集中して取り組んだ。単なる思いつきを思いつきのまま終わらせず、企画書へと反映させることができ、商品や企画に繋げていく手法に則って考察した結果のものであり、前日会ったばかりの清水さんに、自らの企画を売り込みプレゼンテーションを聞いてもらえたことは大きな自信に繋がった。

商品のコンセプトや熱意が通じたためか清水さんの反応も良く、実際に企画が試作品の着手段階へと進み、やりがいと達成感を得た。日々の授業でもねらいや目的を定め、分かりやすく的確に伝えることで理解を得ること、さらに人を動かすのは自身の熱意であることも実感できた。

武蔵野大学の学生との関わりから、彼らの研究成果発表会が9月10日（月）に実施されるということから、その研究成果発表会のリハーサルや発表の際の助言、視聴と講評を研修として行ってはどうかという提案がなされたため、最終日の時期を変更し研修を行うこととした。

9月10日（月）10時より、リハーサルに立会い、発表時の言葉の伝え方や聞き取りやすい話し方に対する助言を行った。15時からの研究成果発表会には児玉一鹿角市長をはじめとして、鹿角市議、市職員だけでなく、研究対象となった商店街や地域住民ら40名が視聴する発表会となり、盛会で幕を閉じた。都市部の大学1年生の目から見た鹿角は、鹿角といえばこれ！という思い切りの良い宣伝が少なく、観光などで町を訪れた人がその特色や魅力を発見するまでに時間がかかり、分かりにくいという指摘が多くなされた。また、改善策として感心した提案には、鹿角市では様々な種類の農業が営まれているところから、大学の実習農場の誘致、長期滞在型の農業実習研修ができるところ活かしたものや商店街が道の駅よりも駅に近いという地の利を活かして、味噌付けたんぽを作つて食べるなどの体験ができる、たんぽの食べ比べや手軽にテイクアウトできるように店頭で実演販売を行い、外装からもお土産さんと分かるような店舗を置くなどという意見が出された。また、コモッセがとても学生には評価が高かったが、その内容としてはWi-Fi環境が整っており、無料で過ごせる空間であり、なによりもそれを求める高校生（若者）が集う場所であることから、商店街の中に小コモッセを設けるなどの意見もあった。現実の政策にどこまで取り入れられていくかは未知数ではあるが、鹿角の人の温かさはしっかりと彼らに伝わっており、無くなつて欲しくない、また来たい場所となつたという意見がほとんどであった。若者に情報を伝えるのであれば、若者が利用しているメディアを活用しなければ伝えたい人に伝わらないことが指摘され、仕掛ける側と受け取る側との年代ギャップを感じた瞬間は、多くの示唆に富んでいた。鹿角には何もないと口に出す市民には、口コミが効果的であり、この成果発表会でのことや、この伝えた鹿角の良いところを、是非参加者の皆が口コミして鹿角の良いところを市民が認識するような鹿角市になって欲しいという学生達の思いは、市民への啓発にもなつていくことと思われる。1ヶ月という滞在期間で多くの人に出会い、日々様々なことを体験してきた彼らの成果発表会は聞き応えがあり、半年前までは高校生だったことを思うと、多感な時期の体験がもたらす成長力に感動した。

「総合的な探究の時間」が目指す取り組みの一端を学べたような想いでいた。

また、研修2日目に取り組んだ新たなお土産品の企画・開発は、現在道の駅の代表取締役である岩船氏、販売課長の湯瀬氏、観光プロデューサーの清水氏と共に、11月11日の鹿角市のゆるキャラであるたんぽこまちちゃんの誕生日に合わせて販売することを目標に、具現化のために動いていくこととなつた。そこでしか購入できない可愛らしいお土産品が売られることを期待し、今後も打合せを進めていくこととなり、鹿角市の良いところ、改善すべきところ、これから可能性に対して、新たな視点や展開方法、仕事の創造などを体験し充実した選択研修をすることができた。この場をお借りして関係各位に御礼を申し上げたい。ありがとうございました。

(A4判1~2枚程度)

# 特 定 課 題 研 究 レ ポ ー ト

所 属 校	秋田県立花輪高等学校	職・氏名	教諭 ・ 高橋 可奈子
研究 分 野	A : 本県の教育課題に関する研究 C : 生徒指導に関する研究 E : 道徳教育等に関する研究 G : 総合的な学習の時間に関する研究	B : マネジメントに関する研究 D : 教科等指導に関する研究 F : 特別活動に関する研究 H : 特別支援教育に関する研究	I : その他
研究 テ ー マ	学習課題に対する生徒自身の目標設定と授業における達成感について		

## 1 研究の概要

花輪高校ではAL型授業に取り組んで6年目を迎えようとしている。その恵まれた環境の中で、私は高校の教員派遣研修制度にて産能大で行われているAL型授業の実践方法について学ぶため、第8回と第11回の教育フォーラムへ参加させていただき、さらに国語におけるAL型授業の第一人者である鈴木健一先生を花輪高校に招聘して行ったH29年度前期授業研修会などを通じ、「振り返りシート」を重視した授業実践に取り組んで来た。その中で、鈴木先生のコーチングの手法やスマールステップなどの目標設定をして授業を行っていても、生徒達の取り組みを見ていると、どこか与えられたものとなっている学習課題について、どうすれば学習課題を自分の学習事項として捉えるのかを研究したいと考えた。また、本校片岡校長が今年度提唱した「A L + P R」（予習—授業—復習）の授業サイクルと重点目標に添い、授業を組み立てる中で、次の3つを意識して取り組むことにした。1、「振り返りシート」の意義を生徒と共有すること、2、授業内での「振り返りシート」の項目記入のタイミングと仕掛け方を工夫し、生徒に対して学習目標を意識づけること、3、自己の気づきや発見を通して授業全体に見通しが持ち、目標を達成するために学習を意識的に行うこととした。学習項目全体の中で、生徒自身の理解度がどのような状況にあるかを理解していくために「学習ログシート」と名付け、授業毎に記入できるように学習の振り返り時間を確保した授業実践を行った。

## 2 成果と課題

受け持った3年生AB組古典Bの生徒は、入学当初から各授業における何らかの「振り返りシート」を記入してきており、振り返りの時間にその授業における感想を記入することにはさほど抵抗を持ってはいなかった。今年度に入り、学習課題に対する自らの目標設定は、その時間に取り組むべき授業の学習内容全体を見通した上で目標設定をする必要があるため、授業の最初の5分で学習課題で何について考える必要があるかを把握して授業に臨むこととなり、授業時間中に私語や居眠りをする生徒が格段に減った。さらに、どのくらい取り組んだか、授業を通して理解出来たことや疑問点を徐々に記入出来るようになっていた。集計結果からは授業の早い段階で何らかの気づきや発見を書き留めておき、授業が進む中で理解し、解決出来たことで達成感に繋がったようであった。昨年度の学習アンケートで、古典をあまり好きではないと答える生徒が多かった中で、古典を好きと答える生徒が増えたことも、古典を含めた読書に繋がる態度を育成できたように思う。ログシートを使った事で生徒自身に何かしらの変容があったかななど、授業と振り返り時間に対するアンケートを行い、その結果を基にさらに改良を加え、授業者の目指す達成目標と生徒の学習活動が記入された学習シートととして、生徒自身の振り返りに有用であると感じてもらえたようであった。自ら目標を達成する過程を記録しておくものとして今後も継続して指導したい。

(A 4判 1~2枚程度、研究にかかる資料等があれば添付すること)

# 国語科 古典B 学習指導案

日 時 平成30年9月3日(月) 第4校時  
場 所 2年E組  
対象者 2年E組(36名)  
教科書 東京書籍『精選古典B 古文編』  
授業者 秋田県立花輪高等学校 高橋可奈子

## 1 単元名

中宮定子と清少納言の関係性から宮中生活について理解しよう。

## 2 教材名

雪のいと高う降りたるを 第二百八十段

## 3 単元の目標

- (1) 問いかけに対して自らの答えを模索し、文章や言葉で表現しようとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 古典を読んで、我が国の文化の特質や我が国と中国の文化との関係について理解を深める。(読むこと)
- (3) 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合う。(知識・理解)

## 4 単元と生徒

### (1) 教材観

筆者である清少納言の視点から捉えた中宮定子を中心とした宮中生活での様子や教養、人間関係を理解し我が国と中国の文化との関係について理解を深め、雪に対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。

### (2) 生徒観

2年E組36名(男子4・女子32名) 文系進学クラス。SGH国際探究活動選択クラスである。全体的におとなしいが、意見交流や感想記述等の学習活動に意欲的である。比較的成績上位者が多い。

### (3) 指導観

平安時代の宮中生活において、中宮定子と清少納言の会話をふまえ、場に応じた当意即妙のやりとりが共通理解の教養に支えられていることを理解し、中国の文化との関係についてまとめさせる。

## 5 単元の指導と評価の計画

時	学習内容 (指導内容)	評価規準		
		関心・意欲・態度 (ア)	読むこと (エ)	知識・理解 (オ)
1 本時	宮中生活の知識 二重敬語(最高敬語) 助動詞「めり」	問い合わせに対し て自らの答えを 模索し、文章や言 葉で表現しよう としている。	古典を読んで、我 が国の文化の特質 や我 が国と中国の文 化との関係につ いて理解を深め る。	文法の知識を活かし て、文章中の表現を根 拠にして話し合う。

## 6 本時の計画

### (1) 本時のねらい

中宮定子を中心とした会話について、定子の発言に対して清少納言がとった行動が教養に裏付けられたものであることを通して、宮中生活について理解することができる。

### (2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (教師の支援)	評価(方法)
導入 10分	本時のねらいについて理解し、自己目標を設定する。  ペアで音読をする。  ペアで現代語訳を確認する。	ワークシートに目標を記入させる。  読みの難しかったところに線を引かせる。  訳せなかったところは、周囲からの支援を得て、完成させる。(訳プリント配布)	
展開 32分	「いと高う」の「いと」について考える。  「例ならず」の例とはどのような状態を表すのか理解する。	「いと」の概念について共通意識を持たせる。  例はどうであったかについて考えさせる。	(ア) 観察 自分の経験や気候・風土を考え合わせ推察しているか。
まとめ 7分	中宮定子の発言の真意はどこにあるか、話し合いで理解を深める。  人々の評価を引き合いに出す理由は何か話し合いで考えを深める。  振り返りをする。	雪の鑑賞方法(教養)最高敬語(二重敬語)を確認させる。  「さべきなめり。」の品詞分解ができるよう、文法事項の確認をする。  自ら設定した目標を達成できたか確認させる。	(エ) ワークシート 中宮定子がにっこりと笑った理由を的確に捉えているか。  (オ) ワークシート 助動詞の知識を活かしているか。

清少納言はなぜ御簾を高く掲げたのだろうか。

学習日【九／三（月）】 雪のいと高う降りたるを 『枕草子』 清少納言

\*本時の学習項目と本文確認し、自己目標を設定しよう。

【本日の共通課題】

「なぜ清少納言は、御簾を掲げたのかについて理解する。」

課題1 プリントを使ってペアで音読。読みにくかった所に線を引く。

音読終了後、現段階で現代語訳できなかつたところに赤線を引こう。

課題2 ペアと現代語訳を確認しよう。

ペアでも取れなかつたところを確認しよう。

雪がたいそう高く降り積もつてゐるのに、

いつもと違つて御格子をお下げ申し上げて、火鉢に火をおこして、

女房達が世間話などをして集まつて中宮様のおそばにお仕え申し上げてい

ると、

（中宮様が） 「清少納言よ。香炉峰の雪はどうである。」

とおっしゃるので、

（私が人に命じて） 御格子を上げさせてから、  
（私が） 御簾を高く上げたところ、（中宮様は） お笑いになります。

（周りにいた他の） 女房達も 「その白居易の詩のような」と=（香炉峰の

雪のこと） は知つておりますし、歌などにまで詠む」ともあるけれど、（清

少納言がしたように御簾を上げようとまでは） 思いつきませんでした。（あなたた清少納言は） やはり、この中宮のお側につく人にふさわしい人のようです。』と云つ。

状況確認 雪がとても降つた日の宮中定子の御前。

御格子が下りついて、炭櫃を囲んで女房達が世間話をしている。

課題3 「雪のいと高う降りたるを」について

（1） 「いと」 つてどのくらい？

（2） 「高う」 を文法的に説明しよう。

（3） 「降りたるを」の「を」を文法的に説明しよう。

課題4 「例ならず」について、いつもと違つていることは何か。

課題5 中宮定子はなぜ清少納言に上記のように話しかけたのか。

課題6 「香炉峰の雪」について→教科書

課題7 中宮定子が笑つた理由は何か。

中宮定子が意図し、望んでいることを素早く理解し、それを行動に表し示した清少納言の教養と機転に対してもましく思ひ、期待通りの反応をしたことへの満足感から。

課題8 「さべきなめり。」何て読む？文法的に説明しよう。

課題9 「さべきなめり。」と発言した周りにいた他の女房たちの反応は、具体的にはどのようなものと考えれば良いか。

この宮にお仕えする人としてふさわしい人のようだ。

↓清少納言の教養と機転に対する賞賛・羨望など、清少納言に対する人物評価として捉える。

課題10 この話で清少納言が伝えたかったことは何か。

『枕草子』に収録されている意義はどこにあると考えられるか。

中宮定子のおそばで仕えていた女房達の教養の高さと芸能・和歌の技術を含めて最上級の技能を持った者達が集められていたが、その女房達からも、中宮定子からも一目置かれる存在としてサロンで活躍していたことをさりげなく自慢し、誇りに思つてゐることを伝えたいのではないだろうか。

課題11 本日の学習を含めて、『枕草子』清少納言について知つてゐる事を全て、語句でアウトプットしよう。

学習日【九／三（月）】 雪のいと高う降りたるを 『枕草子』 清少納言

\*本時の学習項目と本文確認し、自己目標を設定しよう。

【本日の共通課題】

「なぜ清少納言は、御簾を掲げたのかについて理解する。」

課題1 プリントを使ってペアで音読。読みにくかった所に線を引く。

音読終了後、現段階で現代語訳できなかつたところに赤線を引こう。

課題2 ペアと現代語訳を確認しよう。

ペアでも取れなかつたところを確認しよう。

雪がたいそう高く降り積もつてゐるのに、

いつもと違つて御格子をお下げ申し上げて、火鉢に火をおこして、  
女房達が世間話などをして集まつて中宮様のおそばにお仕え申し上げてい  
ると、

(中宮様が) 「清少納言よ。香炉峰の雪はどうであろう。」

とおっしゃるので、

(私が人に命じて) 御格子を上げさせてから、

(私が) 御簾を高く上げたところ、(中宮様は) お笑いになります。  
(周りにいた他の) 女房達も、「その白居易の詩のようなこと」=(香炉峰の  
雪のこと) は知つておりますし、歌などにまで詠むこともあるけれど、(清  
少納言がしたように御簾を上げようとまでは) 思いつきませんでした。(あ  
なた清少納言は) やはり、「この中宮のお側につく人にふさわしい人のよう  
す。」と云つ。

課題3 「雪のいと高う降りたるを」について

(1) 「いと」ってどのくらい?

(2) 「高う」を文法的に説明しよう。

(3) 「降りたるを」の「を」を文法的に説明しよう。

課題4 「例ならず」について、いつもと違つていて何が違うか。

課題5 中宮定子はなぜ清少納言に話しかけたのか。

課題6 「香炉峰の雪」について→教科書

課題7 中宮定子が笑つた理由は何か。

課題8 「さべきなめり。」何て読む? 文法的に説明しよう。

課題9 「さべきなめり。」と発言した周りにいた他の女房たちの反応は、  
具体的にはどのようなものと考えれば良いか。

課題10 この話で清少納言が伝えたかったことは何か。

課題11 本日の学習を含めて、『枕草子』 清少納言について知つてゐる事  
を全て、語句で振り返りシートにアウトプットしよう。

香炉峰下新ト山居草堂初成偶題東壁

現代語訳（口語訳）

白居易

日高睡足猶慵起  
小閣重衾不怕寒  
遺愛寺鐘欹枕聽  
香爐峰雪撥簾看  
匡廬便是逃名地  
司馬仍為送老官  
心泰身寧是歸處  
故鄉何独在長安

書き下し文

香炉峰下、新たに山居をトし、草堂初めて成り、偶東壁に題す  
日高く睡り足りて猶ほ起くるに慵し  
小閣に衾を重ねて寒さを怕れず  
遺愛寺の鐘は枕を欹てて聴き  
香炉峰の雪は簾を撥げて看る  
匡廬は便ち是れ名を逃るるの地  
司馬は仍ほ老を送る官たり  
心泰く身寧きは是れ帰する処  
故郷何ぞ独り長安のみに在らんや

香炉峰のふもと、新しく山の中に住居を構えるのに「じ」と書かれて、「じ」と「じ」とがよいか占い、草庵が完成したので、思いつくままに東の壁に題した（歌）

日は高くのぼり睡眠は十分とつたというのに、それでもなお起きるのがおづくらである

小さな家で布団を重ねているので、寒さは心配ない

遺愛寺の鐘の音は、枕を高くして（耳をすまして）聴き

香炉峰に降る雪は、すぐれをはね上げて見るのである

廬山は（俗世間の）名利（名誉と利益）から離れるにはふさわしい地であり  
司馬（といふ官職）は、やはり老後を送るのにふさわしい官職である  
遺愛寺の鐘は枕を欹てて聴き  
心が落ち着き、体も安らかでいられる所こそ、安住の地である  
故郷というものは、どうして長安だけにあるのか、いや長安だけではない

【古典B】学習ログシート

\*AL(アクティブラーニング型授業)とは、

問題解決のために、グループ等で協力したり一人で多角的に考えたりして課題に取り組む授業のこと。

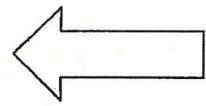
目的：論理的思考力を鍛えるために、主体的な学習者になる。

態度目標：話す（質問、説明、相談）聞く（指示、解説）まとめる（ノート、会話）、

共有（協力、貢献）、考察（観察、考える、解く）、内省（発見、目標設定、振り返り）

\*授業の流れ

- ・ビジュONTAIME(発見→自己目標設定) → シェアタイム
- ・演習タイム
- ・セッションタイム(解答・解説等ペーパー参照)
- ・解説・解説タイム(演習添削タイム)
- ・内省・報告タイム → 学習ログシートに記入 → シェアタイム → 提出



年 組 番 ( )  
\*学習日【九/三(月)四時間目】

\*本時の学習項目・共通課題

【清少納言はなぜ御簾を高く掲げたかについて理解する。】

\*発見@タイム：本時の学習項目について、何かを発見しよう。

\*本時のあなたの達成目標：この時間の学習後どうなつていただきたいですか？

【】

\*本時の学習事項(あなたが学んで理解したことをアウトプットー)

清少納言『枕草子』第二百八十段

雪のいと高う降りたるを、例ならず、御格子まるりて、炭櫃に火おこして、

物語などして集まりさざらふに、「少納言よ、香炉峰の雪いかならむ。」と

仰せらるれば、御格子あげさせて、御簾を高くあげたれば、笑わせたまふ。

本時の学習到達度(振り返って気づいた事を自由記述でどうぞ)

\*態度目標の達成度 次のうち特に頑張った所をマークしよう

- 話す ○ 聞く ○ まとめる ○ 共有 ○ 考察 ○ 内省

人々も、「さる」とてや知り、歌などにさへ歌へど、思ひこそ寄らざりつれ。  
なほ、この富の人には、さべきなめり。」と言ふ。

次の時間までに頑張る」と、やっておくことを手帳にメモしよう。

# フォローアップ研修（英語科）について

英語科 奥畠屋 景子

## 1 はじめに

昨年度参加したパワーアップ研修を踏まえて、今年度の10月16日に花輪高校にて研究授業を行った。特にパワーアップ研修で学んだウォーミングアップの設定の仕方に加えて、ALTとのT.Tの在り方などをテーマに据えて、高校教育課指導主事の青山博輝先生をお招きし、御指導していただいた。

## 2 生徒の反応

本文で学んだアメリカ人の特徴に基づき、日本人である自分自身と比較し、相違点を1つ挙げ、それについて自分の考えを述べあうという活動を行った。活動の前段階として生徒たちはアメリカ人と自分自身との相違を考えなければならず、①自分の人間性を振り返る、②挙げた相違点についての意見の構築という2つのポイントがあった。予想外に生徒にとって①の自分のことを振り返るという段階が困難であったようである。しかしながら、生徒は笑顔など見せながら、一生懸命に自身と向き合い、意見を構築し、他者と意見を共有し視野を広げようとしていた姿が印象的である。

## 3 反省・改善点とまとめ

研究協議会では、多くの御意見をいただくことができた。ウォーミングアップが次の活動と密接に関係していた点、実際に学んだ内容と自分自身を関連させた活動である点を評価していただいた。一方、課題として御指摘いただいたのは、生徒の発表の後の英語による質疑応答であった。トピックが個人的な内容であるだけに、質問しづらいのではないかと御指摘いただいた。こちらの意図としては平易な表現であっても英語による即興のやりとりを楽しんで欲しいと思ったのであるが、実際生徒の感想の中にも、「何を聞いたらいいかわからなかった。」という声があった。今後はトピックの性質も考慮し、質疑応答の場面を盛り込むべきであると反省した。

青山先生からは、授業自体についての御指導に加えて、今後の英語教育が進む道と、高校の英語科教員としてどのように生徒に関わっていくべきかということについてお話をいただいた。新学習指導要領では、状況が複雑に変化する中で様々な情報を見極め、知識を理解し、その上で情報を再構築していく必要があるとされる。そして、その上で他者と協働して課題解決に至る力が求められている。生徒は立場や状況が異なる相手と協働したり、交渉したりする場面に遭遇することもあると思う。10年後、20年後生徒たちはどのように生き抜いていくのだろうか。そしてそのために今、英語科の教員としてどんな力をつけてやるべきなのか。そんなことを考えさせてくれる御指導であった。

## 「コミュニケーション英語Ⅲ」学習指導案

実施日時：平成 30 年 10 月 16 日(火)5 時校時

場 所：3 年 C 組教室

対 象：3 年 C 組

授業者：Brooke Dingleish, 奥山景子

教 材：NEO 現代を見る（いいづな書店）

### 1. 単元名 Unit5 -Lifestyle-

#### 2. 単元の目標

- (1) アメリカ人の国民性について書かれた英文を日本人と比較しながら意欲的に読み進める。
- (2) 正確な読解のために、文の論理関係や空所の前後の語句関係を理解し、答案に反映させる。
- (3) 自分自身とアメリカ人の相違点について考えを伝え合い、自分の考えをより深める。

#### 3. 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

聞いたり読んだりしたことに基づき、情報や考え方などについて自分の意見を表現することができる。

#### 【GRADE5 話すこと】

#### 4. 単元観

英文はアメリカ人がプライバシー重視の姿勢と強い独立心を持ち合わせているために、他人に援助を求めることができず、米国社会はプライバシーを尊重しつつ人々を支援する方法を模索しているというものである。その国民性を日本人と比較しながら読み進めることで、自らの視野を広げて欲しい。また来る大学入試に向けて長文読解力と記述力を養成するため、文と文の論理関係に着目して読ませたい。アメリカ人の ALT に対し、自分の考えを伝える活動を通してより詳細にアメリカ人の国民性を理解する一助になるものと考える。

#### 5. 生徒観

落ち着きのあるクラスであり活動にも一生懸命取り組むことができる。これまで自分の意見や思いを伝え合ったり、他の生徒の意見を自分なりに言い換えて第三者に伝える活動を行ってきたが、本レッスンでは他者の意見を聞いて自分の考えをより深め、再度自分の意見をまとめる流れである。

#### 6. 単元計画（総 4 時間）

1 時間目…本文読解・問題演習

2 時間目…本文読解・問題演習

3 時間目…アメリカ人の国民性について要約する。自分自身と彼らとの相違点について話し合う。

4 時間目…自分とアメリカ人の相違点について考え方を伝え合い、自分の考えをより深める。【本時】

#### 7. 単元の評価規準

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての知識・理解
アメリカ人がプライバシーや独立心を大切にしていることを理解しようとしている。 グループに、自分とアメリカ人の相違点を伝えようとしている。	接続詞や論理関係を表す副詞を用いて、自らの意見を論理的に述べることができる。	アメリカ人が何を重視しているのか、またアメリカ社会にどんな弊害が生じているか理解することができる。 グループの生徒の発表を内容を整理して聞くことができる。	本文に対する ALT の個人的な考えを聞いて、教材の内容と個別の考えを整理して理解する。 論理関係を表す語句の持つ役割を理解している。

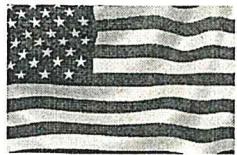
## 8. 本時の学習

### (1) 目標

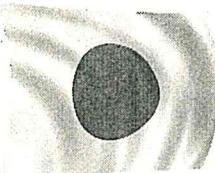
自分自身とアメリカ人の類似点・相違点について考えを伝え合い、自分の考えを深めることができる。

### (2) 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>Warm-up (伝言ゲーム)</li> <li>各列の一番後ろの生徒は廊下に出る。</li> <li>ALT から聞いた一文を前に座る生徒に伝え、一番前の生徒はそれを板書する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>競争であることを伝える。</li> <li>明るい教室の雰囲気を作る。</li> </ul>	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を提示する。 自分自身とアメリカ人の類似点・相違点について考えを伝え合い、自らの考えを深めることができる</li> <li>自分自身との類似点と相違点を整理する。</li> <li>その類似点と相違点の中から 1 つ選び、その理由を 2 つ以上考える。</li> <li>スピーチのためのメモを完成させる。</li> <li>教師のやりとりのモデルを見る。</li> <li>ペアになり、類似点 or 相違点をメモを見ながら伝える。聞き役の生徒はメモを取りながら聞く。</li> <li>4 人グループで類似点 or 相違点とその理由を伝え合い、聞き手はメモを取る。</li> <li>発表者の次の発表者は発表に対して質問をする。</li> <li>ALT に対し、各グループから 1 つずつ意見を出させ、ALT のコメントをもらう。</li> <li>自分以外のさまざまなアイデアに触れ、再度自分の考えを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALT と JTE で、聞きながらキーワードをメモするというモデルを見せる。</li> <li>文章ではなくメモを見ながら伝えることを確認する。聞き手は同時にメモを取ることも確認する。</li> <li>相手に伝えるスピードや声量を確認し、また簡単な英語で話すよう促す。</li> <li>質問や回答を通して、互いの理解が深まるように促す。</li> <li>ALT は生徒の発表の中で使用された効果的な表現などを、より自然な表現やわかりやすい表現に変えて板書し、クラスで共有する。</li> <li>意見が変わっても構わないことを知らせる。</li> </ul> <p>（評価） 授業後にプリントを回収し評価する。</p>	B
まとめ5分	・振り返りシートを記入する。	・提出するように言う。	



# Americans and You



## ~the similarity and the difference~

### 1. The American character ~Fill in the blanks~

The American character		You
① Think as an (	) person	( )
② Value their (	)	( )
③ See them first as (	)	( )
④ Be too (	) to ask for help	( )
⑤		( )
⑥		( )

### 2. Americans and You ~Choose 1 similarity or difference above and think about the reasons ~

Think freely!

1 similarity / difference : \_\_\_\_\_



The (similarity / difference) between Americans and me is \_\_\_\_\_

I have two/three reasons.

First, \_\_\_\_\_

Second, \_\_\_\_\_

Third, \_\_\_\_\_

### Useful expressions for your speech

The (similarity / difference) between Americans and me is ① 類似点・相違点 1つ

I have two reasons. First, I ② その理由 1 . Second, ③ その理由 2

4. Listen to partners' speeches and take notes of their ideas

<u>Partner's name</u> ( ) ①similarity / difference = [ ] ②reasons ● ● ●	<u>Student's name</u> ( ) ①similarity / difference = [ ] ②reasons ● ● ●
<u>Student's name</u> ( ) ①similarity / difference = [ ] ②reasons ● ● ●	<u>Student's name</u> ( ) ①similarity / difference = [ ] ②reasons ● ● ●

5. Revise your speech draft

.....
.....
.....
.....
.....
.....

Self-evaluation

1 アメリカ人と自分自身の類似点または相違点を1つ選び、そう考える理由を2つ以上考えることができた。	A      B      C
2 グループで自分の考えを英語で伝えることができた。	A      B      C
3 コメント・今後の目標	

Class. \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

# 実践的指導力向上研修講座を受講して

地理歴史・公民科 高田 英一

## 1 はじめに

「実践的指導力向上研修講座」は、自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質・能力の向上を図ることを目的として、採用8年目の教諭を対象に行われる講座である。

## 2 I期（平成30年7月9日）

### （1）日程

オリエンテーション	10：00～10：10
講義・演習（事例を通した生徒理解と対応）	10：10～12：00
講義・演習（学校組織の一員として—自己理解に基づく目標設定—）	13：00～14：05
講義・演習（カリキュラム・マネジメント）	14：15～16：15

### （2）内容

秋田県教員育成指標の改訂を受けた研修体系の見直しにより、今回の研修内容も従来までとは違った内容になっているとのお話をあった。「事例を通した生徒理解と対応」というテーマでの講義・演習では、「困った生徒」ではなく「困っている生徒」という捉え方を前提に、原因を一つに決めてしまう直線的思考ではなく、事象の関係性に着目する円環的思考の方が解決に向けて動きやすいということを学んだ。

「学校組織の一員として—自己理解に基づく目標設定—」というテーマでの講義・演習では、社会構造の急激な変化により学校の課題が多様化・複雑化する中で、学校組織マネジメントの必要性が高まっていることや全ての教職員がマネジメント機能を果たしていることについて、改めて理解を深めることができた。

「カリキュラム・マネジメント」というテーマでの講義・演習では、現時点における学習指導要領の改訂案の文言や改訂の背景となった社会の変化をもとに、育成を目指す生徒像をしっかりと定め、教科横断的な視点で取り組んでいくことや、評価による指導の改善を図っていくことの重要性について学んだ。特に人工知能（A I）が進化する中で人間の強みを伸ばしていくことや、P D C AサイクルはC（評価）から始めることが重要であることについては、教職員が認識を共有していくべきことであると考えさせられた。

## 3 II期（平成30年8月23日）

### （1）日程

オリエンテーション	10：00～10：10
協議・演習（授業評価による継続的な授業改善）	10：10～12：00
協議・演習（授業評価による継続的な授業改善（教科別））	13：00～16：15

### （2）内容

今回の研修は「授業評価による継続的な授業改善」というテーマで行われた。国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」では、評価の現状と課題について、テスト等による評価は有効性があるものの学習状況のすべてを表すものではなく、また観点別評価は生徒の資質や能力を多面的に把握することができる反面、評価に追われて十分に指導することができなくなるおそれがあり説明責任を果たすため十分な資料を整えておくことも求められるため負担が大きくなりがちであると指摘されていた。それを踏まえ、肝心なことはすべてを変えることではなく、今ある評価の在り方を少しずつ改善していくこうとする学校全体での継続的な取り組みであるということを学んだ。例えば、問題演習をさせているノートからも「関心・意欲・態度」や「思考・判断・表現」の評価は可能であり、今取り組んでいることを観点別に整理して記録していくことでも良いのではないかとのことであった。

受講者が学習指導案を持ち寄り、評価方法について各自の普段の取り組みを紹介し合ったり今後の改善方法について意見を出し合ったりする時間も設けられた。(なお、次ページ以降に協議資料として作成した「学習指導案」と「評価方法の工夫」に関する資料を掲載する。) 同じ教科だけでなく他教科の取り組みも学ぶことができ非常に参考になった。評価を成り立たせるためには妥当性と信頼性が重要で、評価を踏まえた授業改善を今後も進めていかなければならないと改めて考えさせられた。

#### 4 おわりに

これまで、校内外、県内外を問わず様々な研修会等に参加し、その度に新たな発見や改めて気付かされることがあった。今年度の「実践的指導力向上研修講座」においても、教科指導や生徒指導等について、これまでの自分の取り組みを振り返り、生徒の成長を支援していくために今後実践していくべき教育活動の方向性を見出すことができたように思う。自分を省みながら、現状を維持しようということではなく、常により良い指導を行うことができるよう、今後も研修に励みながら教師としての力量の向上に努めていきたい。

実践的指導力向上研修講座Ⅱ期（高等学校）

**地理歴史科（日本史B）学習指導案**

日 時 平成30年7月6日（金） 4校時

対象生徒 秋田県立花輪高等学校 3年C・D組 24名

指導者 高田 英一

教科書 詳説日本史 改訂版（山川出版社）

**1 単元名 幕政の安定**

**2 単元の目標**

- (1) 文治政治の展開について、時代の変化や社会の様子と関わらせて学ぼうとする。（関心・意欲・態度）
- (2) 文治政治の背景や政策の意義について考察し、それを自分の言葉で表現することができる。（思考・判断・表現）
- (3) 資料を用いて、文治政治の特徴について読み取ることができる。（資料活用の技能）
- (4) 文治政治が展開した時期に実施された政策の内容について理解することができる。（知識・理解）

**3 単元と生徒**

本単元では江戸幕府4代～7代将軍の時代について学習する。これは学習指導要領の「2 内容とその取扱い」における大項目（3）の「イ 近世国家の形成」にあたる。この時期は江戸幕府初期にみられた武断政治に代わり、儒教的な徳治主義を基に法制の整備や人心の教化などにより秩序を安定させようとする文治政治への転換が図られた時期であり、幕政だけでなく、諸藩においても儒者を顧問にした政治の刷新が図られた時期である。歴史の学習に対し高い関心をもって取り組んでいる生徒が多い一方、定期考査等に見られる生徒間の標準偏差が大きく、歴史的事象を相互に関連付けて思考することができる十分でない生徒も多い。発問や学習活動を工夫しながら、生徒が深く思考しながら歴史を考察することができるような指導を行っていきたい。

**4 単元の指導と評価の計画**

時	指導内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
1	平和と秩序の確立	武断政治の弊害に着目し、文治政治の展開について学ぼうとする。			江戸幕府4代将軍の下で実施された政策や諸藩の文治政治の内容について理解することができる。
2 本時	元禄時代		元禄時代に実施された政策の意義について考察し、自分の言葉で表現することができる。	資料を用いて、元禄時代の政治の特徴を読み取ることができる。	
3	正徳の政治		正徳の政治が進められた背景について考察し、自分の言葉で表現することができる。		江戸幕府6代及び7代将軍の下で実施された政策の内容について理解することができる。

## 5 本時の計画

- (1) 本時の目標 資料を用いて元禄時代の政治の特徴を読み取るとともに、元禄時代に実施された政策の意義について考察し、自分の言葉で表現することができる。
- (2) 展開（評価の観点 ア 関心・意欲・態度 イ 思考・判断・表現 ウ 資料活用の技能 エ 知識・理解）

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5分)	<p>(1)江戸幕府5代将軍の徳川綱吉について、知っていることを出し合う。</p> <p>(2)本時の学習課題を確認する。</p> <p>元禄時代の政治には、どのような意義があるのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒がもっている知識を全体で共有しながら、本単元の学習に対して意識を向けさせる。</li> <li>生徒は「生類憐みの令を出した」や「犬を大事にした」などの理解をしていると予想されるが、それを深められるように学習課題を提示する。</li> </ul>	
展開 (37分)	<p>(1)将軍綱吉の下で学問が奨励されていたことについて史料の読み取りなどを通して理解し、プリントに必要事項を書き入れる。</p> <p>(2)将軍綱吉の下で実施された民衆政策の内容についてグラフの読み取りなどを通して理解し、プリントに必要事項を書き入れる。</p> <p>(3)展開(2)で扱った政策の意義について考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>湯島聖堂などを挙げ、特に儒学が重視されていたことを意識させる。</li> <li>武家諸法度（天和令）の第1条が、従前のものと異なる点を史料から読み取らせ、文治政治の明確化が図られたことに気付かせる。</li> <li>服忌令と生類憐みの令を挙げ、「忌引」の概念と結び付けることによって、負の側面が強く認識されがちな生類憐みの令について多角的に考察させるようにする。</li> <li>貨幣改鑄について、質の劣る元禄小判が発行されたことをグラフから読み取らせ、それが物価騰貴を招いたことを生徒に気付かせる。</li> </ul>	ウ 資料を用いて元禄時代の政治の特徴を読み取ることができたか。 (学習プリント、発表)
整理 (8分)	<p>(1)本時の学習内容を振り返り、確認問題に取り組む。</p> <p>(2)次時の学習内容を確認し、学習プリントを提出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解答時間を確保した後、確認問題1と2については生徒を指名し、答えを発表させる。また必要に応じて設問の解説をする。</li> <li>次時は確認問題3の内容を全体で共有する活動から始めることを生徒に伝える。</li> </ul>	イ 元禄時代に実施された政策の意義について考察し、自分の言葉で表現することができたか。 (学習プリント、発表)

## 実践的指導力向上研修講座Ⅱ期（高等学校）

### 授業評価の工夫について

平成30年8月23日

秋田県立花輪高等学校 高田 英一

#### 1 授業の「振り返り」として行っている「確認問題」について

— <確認問題> —

1. 元禄時代 徳川綱吉が行った政治について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  
① 生駒説みの令を出して、大をはじめとする鳥獸の保護を命じた。  
② 貨幣の質を落とした改修を行い、物価の騰貴を招いた。  
③ 温島に聖堂を建てて、学問所として整備した。  
④ 側用人として、大岡忠相を重用した。

(03 追試)

2. 商政の安定 次の文席を読み、空欄 [ア] [イ] に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。  
17世紀の後半になると、我國の道風もしだいに薄れていき、幕府も儀礼にもとづき社会秩序の維持をはかるようになつた。4代将軍の時代には、異様な風俗で徒党を組み、秩序に収まらない [ア] に対する取締りを強めた。5代将軍が出した [イ] は、庶民を苦しめたが、生を残せる風潮が社会に伝達していくことにもなつた。  
① ア かぶき者 イ 生駒説みの令  
② ア かぶき者 イ 末期菫子の禁  
③ ア 無宿人 イ 生駒説みの令  
④ ア 無宿人 イ 末期菫子の禁

(10 本試)

3. 「生駒説みの令」や「服忌令」により、社会の価値観はどのように変化したのだろうか。  
(否定された価値観と新たに生まれた価値観について説明せよ)

年 組番：氏名

- 主に大学進学を希望する生徒が集まるクラスの授業はプリントで進め、プリントの最後に「確認問題」を載せている。「確認問題」は、大学入試センター試験（本試験・追試験）で過去に出題された問題や、模擬試験で出題された問題の中から選んでいる。
- マーク形式の問題を載せる場合がほとんどで、1問あたり40秒～1分程度を目安として解答時間を設けている時間がきたら解答について生徒同士で意見交換をさせるが、その際には自分の解答の根拠をできるだけ示し合うように指導している。
- 今回の確認問題のうち、3のような論述問題を載せる場合はプリントを提出させ、採点してから返却するようしている。授業の展開部分において論述する活動を取り入れる場合もある。

#### 2 実際に生徒が解答し教員が採点した「確認問題」

— <確認問題> —

1. 元禄時代 徳川綱吉が行った政治について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  
① 生駒説みの令を出して、大をはじめとする鳥獸の保護を命じた。  
② 貨幣の質を落とした改修を行い、物価の騰貴を招いた。  
③ 温島に聖堂を建てて、学問所として整備した。  
④ 側用人として、大岡忠相を重用した。

(03 追試)

2. 商政の安定 次の文席を読み、空欄 [ア] [イ] に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。  
17世紀の後半になると、我國の道風もしだいに薄れていき、幕府も儀礼にもとづき社会秩序の維持をはかるようになつた。4代将軍の時代には、異様な風俗で徒党を組み、秩序に収まらない [ア] に対する取締りを強めた。5代将軍が出した [イ] は、庶民を苦しめたが、生を残せる風潮が社会に伝達していくことにもなつた。  
① ア かぶき者 イ 生駒説みの令  
② ア かぶき者 イ 末期菫子の禁  
③ ア 無宿人 イ 生駒説みの令  
④ ア 無宿人 イ 末期菫子の禁

(10 本試)

3. 「生駒説みの令」や「服忌令」により、社会の価値観はどのように変化したのだろうか。  
(否定された価値観と新たに生まれた価値観について説明せよ)

相手を殺傷することで出世を図る価値観が否定される。  
死を忌み（弔い）人命を尊重する価値観が生まれる。

※4点

・ポイントをおさえ、自分の言葉で内容を説明している。

#### <解答のポイント>

- 相手を殺傷することで出世を図る価値観が否定される。
- 死を忌み（弔い）人命を尊重する価値観が生まれる。

— <確認問題>

1. 元禄時代 徳川綱吉が行った政治について述べた文として誤っているものを、次の①~④のうちから一つ選べ。  
① 生頬拂みの令を出して、犬をはじめとする鳥獣の保護を命じた。  
② 貨幣の貿を落とした改革を行い、物価の騰貴を招いた。  
③ 沿島に櫻島を建てて、学問所として整備した。  
④ 飼用人として、大岡忠相を重用した。

(03 追記)

2. 稲政の安定 次の文章を読み、空欄 □ ア イ に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

17世紀の後半になると、戦国の遺風もしだいに薄れていき、幕府も儀礼にもとづき社会秩序の維持をはかるようになった。4代将軍の時代には、異様な風体で徒党を組み、秩序に収まらない □ に対する取締りを強められた。5代将軍が出した □ は、庶民を苦しめたが、校生を趕ける風潮が社会に波瀾していくことにもなった。

- ① □ かぶき者 イ 生頬拂みの令  
② □ かぶき者 イ 末期養子の禁  
③ □ 無宿人 イ 生頬拂みの令  
④ □ 無宿人 イ 末期養子の禁

(10 本試)

3. 「生頬拂みの令」や「服忌令」により、社会の価値観はどのように変化したのだろうか。

(否定された価値観と新たに生まれた価値観について説明せよ)

「生頬拂みの令」は、社會に風流を帯びすぎることを戒めとしていたのであるが、口を閉じ、鼻を閉じ、顔を隠す、身前までを黙々とし奉るの如きが、當時の風潮とされ、これが最も多く見られた。

3/4

\*血を拂う、身前を黙る方

3年

※3点

- ・自分の言葉で説明しているが、前半部分と後半部分のつながりに少しおける。

— <確認問題>

1. 元禄時代 徳川綱吉が行った政治について述べた文として誤っているものを、次の①~④のうちから一つ選べ。  
① 生頬拂みの令を出して、犬をはじめとする鳥獣の保護を命じた。  
② 貨幣の貿を落とした改革を行い、物価の騰貴を招いた。  
③ 沿島に櫻島を建てて、学問所として整備した。  
④ 飼用人として、大岡忠相を重用した。

(03 追記)

2. 稲政の安定 次の文章を読み、空欄 □ ア イ に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

17世紀の後半になると、戦国の遺風もしだいに薄れていき、幕府も儀礼にもとづき社会秩序の維持をはかるようになった。4代将軍の時代には、異様な風体で徒党を組み、秩序に収まらない □ に対する取締りを強められた。5代将軍が出した □ は、庶民を苦しめたが、校生を趕ける風潮が社会に波瀾していくことにもなった。

- ① □ かぶき者 イ 生頬拂みの令  
② □ かぶき者 イ 末期養子の禁  
③ □ 無宿人 イ 生頬拂みの令  
④ □ 無宿人 イ 末期養子の禁

(10 本試)

3. 「生頬拂みの令」や「服忌令」により、社会の価値観はどのように変化したのだろうか。

(否定された価値観と新たに生まれた価値観について説明せよ)

相手を侮らして高い位の役職に就くという価値観が否定され、新たに儀礼の知識や物を大事にするという価値観に変化した。

2/4

つまり、物を大事にするといふ価値観に変化した。

3年

※2点

- ・誤字がある。  
・自分の言葉で説明しているが、前半部分と後半部分のつながりに欠けている。

— <確認問題>

1. 元禄時代 徳川綱吉が行った政治について述べた文として誤っているものを、次の①~④のうちから一つ選べ。  
① 生頬拂みの令を出して、犬をはじめとする鳥獣の保護を命じた。  
② 貨幣の貿を落とした改革を行い、物価の騰貴を招いた。  
③ 沿島に櫻島を建てて、学問所として整備した。  
④ 飼用人として、大岡忠相を重用した。

(03 追記)

2. 稲政の安定 次の文章を読み、空欄 □ ア イ に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

17世紀の後半になると、戦国の遺風もしだいに薄れていき、幕府も儀礼にもとづき社会秩序の維持をはかるようになった。4代将軍の時代には、異様な風体で徒党を組み、秩序に収まらない □ に対する取締りを強められた。5代将軍が出した □ は、庶民を苦しめたが、校生を趕ける風潮が社会に波瀾していくことにもなった。

- ① □ かぶき者 イ 生頬拂みの令  
② □ かぶき者 イ 末期養子の禁  
③ □ 無宿人 イ 生頬拂みの令  
④ □ 無宿人 イ 末期養子の禁

(10 本試)

3. 「生頬拂みの令」や「服忌令」により、社会の価値観はどのように変化したのだろうか。

(否定された価値観と新たに生まれた価値観について説明せよ)

命を大切しようといふ形の組合せが生まれてゆく中で、死んだ動物の处理などを行っていき、「死んでいた動物が生き返る」という迷信が根付いた。

1/4

「命を大切しよう」と、新しい風潮を歩んでいく

3年

# 情報教育推進研修講座

商業・情報科 工藤 由紀子

## 1. はじめに

センター研修のB講座への参加となった。研修の目的は、情報モラル指導やICTを活用した授業についての理解を深めるとともに、情報教育の推進者としての知識を養うというものである。小・中・高の教諭30名が集まり、校種・教科も様々であった。

各校の情報教育を推進し、言語能力・問題解決能力・情報活用能力の育成のため、一定教科のみの取り組みではなく、学校全体としての取り組みが求められている。そして、情報活用能力の三つの観点（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）を踏まえ、ICTを活用した授業により生徒には学力向上を、職員には授業改善が必要とされる。

## 2. 学力向上のためのICT活用とプログラミング教育（講義・演習）

新学習指導要領により主体的・対話的で深い学びのために小学校外国語教育が導入（5・6年生で教科化）、小・中学校道徳の教科化、小学校プログラミング教育の導入が開始される。さらに、子どもたちが生きる未来はグローバル化、情報化により変化が激しく予測困難な未来が待ち受けている。そこで、論理的思考力や創造性・問題皆生能力といった資質・能力が必要とされる世の中になっていくであろう。とりもなおさず、IT人材の不足が予測されるのである。

### （1）「教育の情報化」と「情報教育の目標」

新学習指導要領に示された学習の基盤となる資質・能力とは言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力である。

「教育の情報化」とは、次の3点を通して質の向上を目指すものである。

- ① 情報教育…子どもたちの情報活用能力育成。
- ② 教科指導におけるICT活用…各教科等の目標を達成する際に効果的に情報機器を活用すること。
- ③ 公務の情報科…教員の事務負担の軽減と子どもと向き合う時間の確保。

### 「教育の目標」（情報活用能力の3観点）

- ① 情報活用能力の実戦力…言語や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて必要な情報を主体的に収集・判断・表現・整理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力。
- ② 情報の科学的な理解…情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解。
- ③ 情報社会への参画する態度…社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼして影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度。

ここで、文部科学省によると教員に求められる I C T 活用指導力は次のものがある。

- ① 教材研究・指導の準備・評価などに I C T を活用する能力。
- ② 授業中に I C T を活用して指導する能力。
- ③ 児童生徒の I C T 活用を指導する能力。
- ④ 情報モラルなどを指導する能力。
- ⑤ 公務に I C T を活用する能力

## (2) 教科指導における I C T 活用

デジタル教材を活用した授業の在り方として、授業改善につながる I C T 機器活用の視点は次の 5 つである。

- ① 指示を明確にする。
- ② モデルを指示する場面で提示する。
- ③ 情報を共有する場面で活用する。
- ④ 繰り返しによる定着を図る場面で活用する。
- ⑤ 子どもの意欲を高める場面で活用する。

デジタル教材としてはデジタル教科書・授業支援ソフト・オンライン教材・無料アプリがある。オンライン教材の具体例として、(NHK for School・NHK高校講座・eTeachers・mextchchannel) が紹介された。I C T 機器としてはパソコン・タブレット電子黒板・実物投影機・プロジェクター・デジカメがあるが、その他にワイヤレスアダプター・Apple TV、無料アプリとして地域経済分析システム (RESAS) が紹介された。RESAS (リーサス) は総合的な探求の時間や課題研究、生徒自身の進路研究をすることに大いに役立つと思った。

I C T 機器の活用において配慮すべきことは、次の点である。

- ① 何を、いつ、どのタイミングで提示するか。
- ② 提示した後にどう發問し、どんな活動をさせるか。
- ③ I C T 機器の機能に振り回されない。
- ④ 従来の授業スタイルを大きく崩さない。→日々の授業を少しづつ改善。

I C T 活用のスタートは大きく写すことから始めた方がよく、実物投影機とプロジェクターの活用が導入編となる。

## (3) 情報に関する責任

これは、日常に潜む危険を認識することである。まず、情報セキュリティでは、個人情報等の入っている S D カードや U S B メモリーの紛失、データの誤送信、個人情報の入ったデータを消し忘れ L I N E で拡散、個人情報を含む修学旅行の職員用しおり紛失、指導要録の紛失など多数の事故が発生している。

さらに、教育公務員として配慮しなければならないことがある。

- ① プライバシーの保護、肖像権の尊重→個人情報を開示しない、事前に許諾を得る。
- ② 著作権、産業財産権などの尊重→著作面の許諾。
- ③ 情報発信に伴う責任→人権への配慮、他人への思いやり。

また、授業における著作物 (新聞・本・ビデオ・C D ・テレビ番組等々) 複製上の留意点

として、① 教育を担当するものが  
② 授業の過程で使用するために  
③ 必要とされる限度に  
④ 著作権の利益を不当に侵さない  
以上の条件を満たしていれば、許可なく複製できると規定されているので、知っておくことが大切である。

### (3) 演習

- ① 著作権についての○×問題
- ② プログラミングの基礎

プログラミングソフトの基礎として、小学校でのプログラミング的思考を育てるアプリを活用して実践した。

プログラミング的思考とは、自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組み合わせをどのように改善していくか、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力である。

スタジオワカで制作された「Scratchでつくろう！」（<http://studio-waka.com>）で、スライドを動かす、算数の三角形を作る、三角形の角度を変える等の実習を行った。

## 3. 学校における情報モラル指導（講義）

株式会社ラック サイバー・グリッド・ジャパン I C T 利用環境啓発支援室室長の吉岡良平氏による講義であった。サブタイトルが～「だめ」から「考える」ネットリテラシー～で小・中学生や情報の授業に関わらない教員に対しての内容である。本校では、ここ数年3月に新入生オリエンテーションで行っている（株）グリーからの講師派遣による情報モラル教室や社会と情報の授業で指導している事の方が内容が濃いように感じた。

## 4. 授業における I C T 活用（協議）

グループに分かれ、各校の I C T 活用状況と現状を報告し合った。商業・工業系の学校を除き、いずれの学校も理科や数学・社会の先生などが主に活用しているだけで、ほとんどの情報機器は個人持ちである。タブレットを学校で用意する所も出て来ているが、1クラス分の用意しかない。また、教室にWi-Fi環境の整備がされていないのが実情である。

## 5. 終わりに

今回の研修は、小学校からのプログラミング教育導入に伴い、高校においての情報教育を考えさせられるものであった。アプリの紹介は参考になったが、I C T 機器の整備が不十分な現状で、I C T を活用した授業及び授業改善のためとはいえ、どれだけの経済的個人負担が強いしていくのか、疑問に堪えない。モラル教育については、機器の取り扱い、特にスマートなどの利用技術について取り沙汰されることが多い。しかし、技術の進歩についていけないから生徒の指導が困難なのではなく、生活の基本、アナログな面での道徳観の育成をより徹底していくことが重要だと考える。

## 前期授業研修会 資料

・「KP法」による授業展開の資料（資料1～資料4）

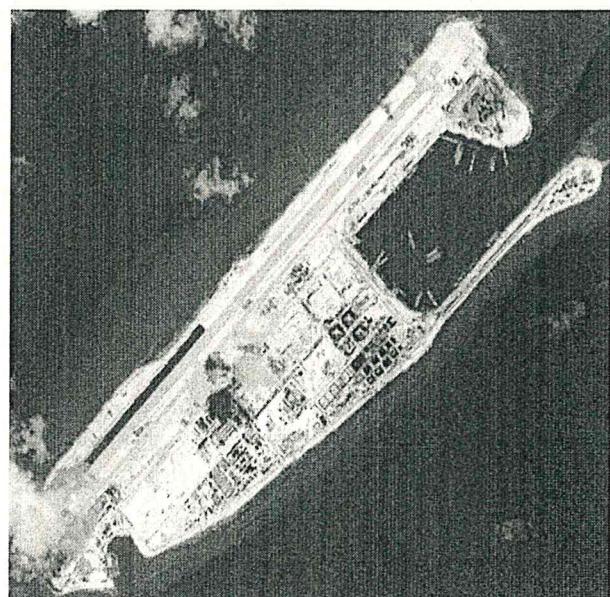
授業の目標：「日本は中国と距離を置くべきか、近づくべきかを考えよう」

### 資料1

・朝日新聞（中国対ベトナム・フィリピン）

南シナ海では、1970年代に海底油田が見つかるなど豊富な天然資源の存在が明らかになると同時に、中国やベトナム、フィリピンなどの沿岸国との間で、岩礁などの領有権をめぐる対立が顕在化した。中国は74年と88年、ベトナムに対して軍事力を行使し、パラセル（西沙）諸島のウッディ・アイランド（永興島）などの実効支配を確立、その後は南シナ海に面した海南島に大規模な海軍基地を建設した。そして、チベット・ウイグル・台湾だった中国の核心的利益に南シナ海が加えられ、2012年には南シナ海のほぼ全域を管轄する三沙市を制定、海洋法執行機関に所属する「海警」など政府公船を使った警備活動が日常的に続けられている。

その上、13年末ごろからは、スプラトリー諸島に点在する7か所の岩礁や満潮時に水没する暗礁で、周囲のサンゴ礁を大規模に破壊し、人工島を建設するといった暴挙に出た。南シナ海の島々に歴史的な権益を主張する中国は、自らも批准する「国連海洋法条約」を無視、もしくは都合よく解釈し、埋め立てて造った人工島を「領土」と主張、南シナ海の80%を占める海空域で主権行使すると宣言している。

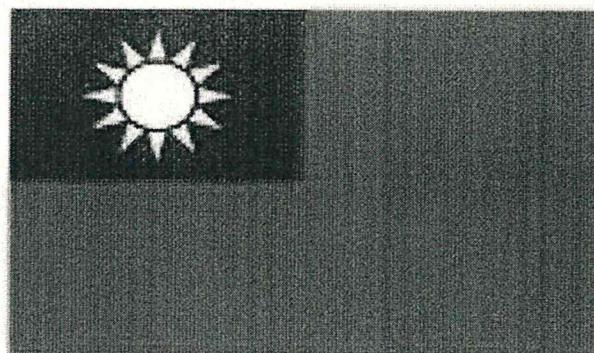
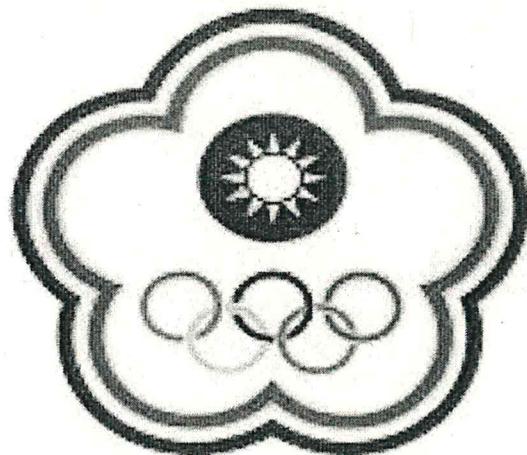


## 資料 2

### ・朝日新聞（中国対台湾）

中国が抱える大きな問題の一つに、台湾との関係（中台問題）があります。第二次大戦後に中国は激しい国内内戦が起こり、1949年には毛沢東率いる中国共産党が本土を制圧し「中華人民共和国」を制定し、対立していた蒋介石率いる中華民国政府は台湾に逃れて独立自治を進めるようになりました。以来、国際的には台湾は中華人民共和国の一部と認定されていますが、両者は対立したままで、統一国家の名目ながらそれぞれ独立自治を行っている状況です。

国家として正式に独立したいと国際舞台で訴えている台湾ですが、中国政府は絶対にそれを認めようとはしません。日本の国会議員が一言「台湾は独立国家だ」と言うニュアンスの発言をするだけで、中国側はヒステリックな位日本を非難し、一気に関係が悪化します。



## 資料 3

### ・朝日新聞（中国対アメリカ）

すでに日本でも大きく報道されているので周知だろうが、中国共産党機関紙である人民日报系の日刊紙「環球時報」は5月25日付で、「米中が南シナ海で軍事衝突する可能性が大きい」と題する社説を掲載した。米軍が「挑発」と「侮辱」を続けるなら、「中国軍は尊厳のために戦う」としている。

いま中国は、領有権を主張している南シナ海の南沙諸島の永暑礁(ファイアリー・クロス)で、本格的に埋め立て作業を行っている。滑走路なども完成間近の状態だ。中国のこうした強硬な動きを米軍は監視を続けており、中国が埋め立てを続けている空域で何度も偵察機を飛行させている。メディア関係者を偵察機に搭乗させての取材も行った。

南沙諸島の領有権を強く主張している中国は、米軍機の監視行動を「領空侵犯」として認識しており、強く反応している。中国政府外交部は、「無線警告で米軍機を追い払った」と主張。米軍を「極めて無責任で危険な『領空侵犯』」、「国際法を順守し、挑発的な行動を控えよ」などと非難した。

さらに「環球時報」社説では、中国としては「譲れない最低ライン」は埋め立て工事の完成であり、「もし、米国の譲れない最低ラインが中国の埋め立て工事の停止であるならば、米中の南シナ海における一戦は不可避」であるとし、「中国軍は尊厳のために戦う」と主張した。

#### 資料4

##### ・朝日新聞（中国対ドイツ）

好調を維持するドイツ経済だが、製造業や観光などの主要産業分野では、中国への依存度を急速に高めている。先進7カ国（G7）財務相・中央銀行総裁会議では、28日からの本会合でアジアインフラ投資銀行（AIIB）についても議論されるが、経済の中国依存を背景に、日米との足並みが乱れる可能性もある。

エルベ川に臨み、ザクセン王朝時代の宮廷文化で知られるドイツの古都・ドレスデン。人気の観光スポット、フラウエン教会前広場には、欧州各国からの旅行客に交じり、「中国人の姿を見る機会が増えた」（土産物店主）という。インフォメーションセンターにも、中国語表記のパンフレットが並ぶ。

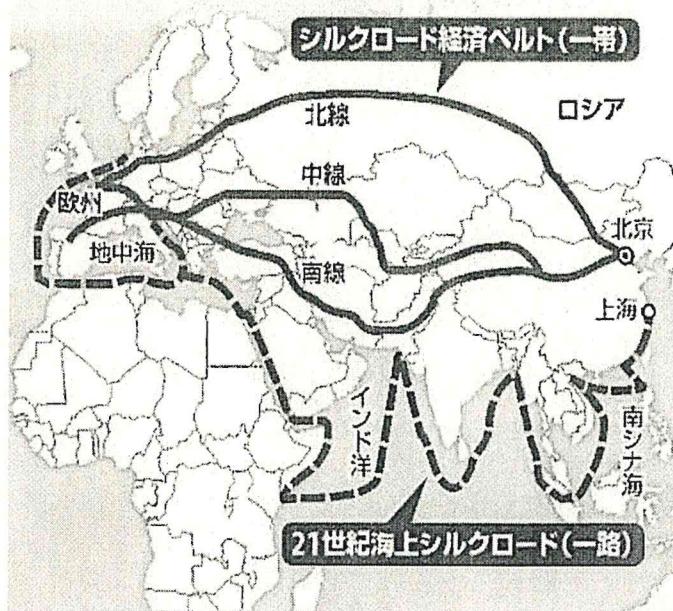
ドイツ観光局によると、LCCの浸透や鉄道の高速化などを追い風に、ドイツを訪れる外国人数は右肩上がりに増加。2014年のドイツ国内の外国人宿泊数は約7500万泊を超え、5年前の約1.4倍。観光業界の雇用者数約290万人は自動車産業に匹敵するまでに成長した。観光客の内訳は、他の欧州各国からが7割以上を占めるが、増加分は中国の寄与が大きい。宿泊数は13、14年と2年連続で2桁の伸びで、30年には14年の約2.6倍と試算される。観光局は「日本人観光客数が2000年から伸びないのとは対照的だ」と話す。

輸出と輸入を合わせた貿易規模でも、中国はフランス、オランダに次ぐ3番目の相手国。好業績に沸く自動車業界では、最大手フォルクスワーゲン（VW）の中国での出荷台数が、14年で約368万台となり、ドイツを含む西欧向け出荷台数をしのいだ。ドイツ政府高官は、「消費市場としても投資市場としても重要な相手」と評する。

こうした中、ドイツは3月、英国に続いてAIIBの創設メンバー入りへ名乗りを上げた。

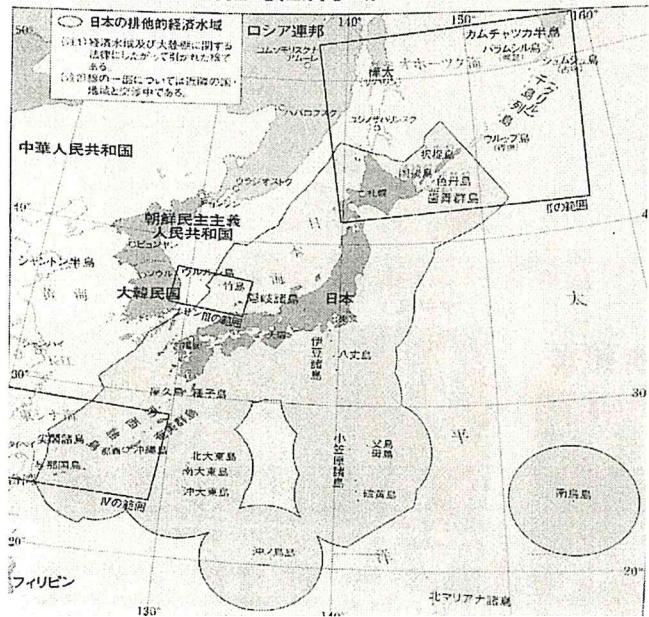


❶一帯一路のイメージ図 ※中国メディアの報道などから



## 資料5 日本の領域と排他的経済水域

### ■日本の領域と排他的経済水域



## 後期授業研修会

# 後期校内授業研修会（国語科）について

国語科 高橋 可奈子

## 1 はじめに

後期校内授業研修会では、高校教育課指導主事の櫻田瑞子先生をお招きして研究授業を行った。一ヶ月前課題「学力向上に向け、生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりを目指す」に基づき、勤労観育成に繋がる働くことを題材に「書くこと」を通して生徒自身が自己と向き合い考え、効果的に表現することを目標に授業を行った。

## 2 生徒の反応

5時間目の自己と向き合い考え、文章に表現し、6時間目の研究授業では生徒たちが書いた文章を相互鑑賞し、言葉で「良いところ」を伝え合い、さらに文章の推敲を通じて効果的な表現となっているかについて評価した。教科書の参考文章や家族へのインタビューなど自分だけではなく他者の考えも取り入れながら自らの勤労観を深める事ができたと思う。互いの書く文章を読むことで、級友の考えを知り、自らを振り返ることができていた。まとめは自作の振り返りシートである「ログシート」を用いて、その日の学習内容で分かったことをアウトプットさせ、内容を理解するだけでなく、それに取り組んだ感想を3行の文章にて表現させ活動の意義や理解が深まったと感じた。

## 3 反省・改善点とまとめ

研究協議会では、多くの御意見をいただくことができた。特に授業のレディネスに関して「ログシート」に授業自体の目標や課題だけではなく、生徒自らがどのように取り組むかという自己目標の書き込むこと、振り返りシートに記入する分量が多くても生徒たちが時間内で取り組んでいたことなどが良いという意見を多くいただいた。さらに、相互評価をする際に「良いところ探し」と板書することで生徒たちが互いに尊重した学び合いになっていたと言っていたいただいた。

櫻田先生には、生徒が授業の全体を見通した上で様々な学習活動を行っていること、各自の取り組みに全員真剣に取り組んでいたこと、書くための時間設定を授業時間内に確保して取り組ませていたことが良いと言っていただいた。加えて目標でもあった効果的な文章にするためにグループ活動後の個人の活動で書き直すときに「インターナンシップで学んで来たことを入れる」、「指導者自身の勤労観を生徒に話をし、そこから感じ取ったことを入れる」など、条件設定を加えて負荷を与えても生徒たちは頑張れたのではないかという助言を頂いた。生徒にどのような国語の力をつけるのかを意識し取り組んでていきたい。

# 国語科 現代文B 学習指導案

日 時 平成30年10月16日（火）第5校時  
場 所 2年B組  
対象者 2年B組（34名）  
教科書 東京書籍『新編現代文B』  
授業者 秋田県立花輪高等学校 高橋可奈子

## 1 単元名

働くよろこび

## 2 教材名

楽に働くこと、楽しく働くこと 小関 智弘  
——高校生に薦めたい本 内山 節『情景のなかの労働』  
白鷹幸伯『鉄、千年のいのち』

## 3 単元の目標

- (1) 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。文章で表現しようとしている。（関心・意欲・態度）
- (2) 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。（書くこと）
- (3) 新出漢字や語句の意味を理解している。（知識・理解）

## 4 単元と生徒

### (1) 教材観

筆者である小関智弘、引用されている内山節、白鷹幸伯の文章を読んで、楽に働くことと楽しく働くことの違いや各自の勤労観について生徒の考えを深めることができる教材である。

### (2) 生徒観

2年B組34名（男子14・女子20名）の文理Iクラスである。就職から各種専門学校、短期大学、四年制私立大学の進学まで、進路の幅が広いクラスである。意見交流や感想記述等の学習活動に意欲的である。成績も上位者から下位者まで幅広く分散している。

### (3) 指導観

夏期休業前に第2学年全員がインターンシップを経験し勤労観が高まっていることもあり、生徒自身のキャリア形成や自己理解を深めるためにも読書が重要な意味を持つと考える。自己の進路に繋がる本を探し出し、読み進めていく中で働くということに対してさらに自己の考えを深め、読書を積極的にするような生徒を育てたい。

## 5 単元の指導と評価の計画

（事前の取り組み）学習前の働くことに対する生徒自身の思いを200字で書く。

- |         |   |
|---------|---|
| 第1時     | 教科書P178～ 形式段落1～4 内容理解                                     |
| 第2時     | 教科書P179～ 形式段落5～7 内容理解                                     |
| 第3時     | 教科書P180～ 形式段落8～12 内容理解                                    |
| 第4時     | 教材学習後における自らの勤労観について考えを深め、文章で表現する。                         |
| 第5時（本時） | 自らの勤労観に対する考え方を他者と共有し、自己について理解を深め、あらためて自己の勤労観について効果的に表現する。 |

## 本時の評価計画

時	学習内容 (指導内容)	評価規準		
		関心・意欲・態度 (ア)	書くこと (ウ)	知識・理解 (オ)
本時	自らの勤労観について理解する。	自らの勤労観に対する考え方を他者と共有し、自己について理解を深め、あらためて自己の勤労観について効果的に表現しようとしている。	自らの勤労観に対する考え方を他者と共有し、自己について理解を深め、あらためて自己の勤労観について効果的に表現している。	効果的な表現方法を用いて表現できたか。

## 6 本時の計画

### (1) 本時のねらい

自らの勤労観に対する考え方を他者と共有し、自己について理解を深め、あらためて自己の勤労観について効果的に表現する。

### (2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (教師の支援)	評価 (方法)
導入 5分	本時のねらいについて理解し、自己目標を設定する。	ワークシートに自己目標を記入させる。	(ア) 学習ログシート
展開 13分	他者の勤労観について自己と比較しながら読む。(班活動)	自己と他者の勤労観の相違点をワークシートに記入させる。	(オ) ワークシート
自らの勤労観に対する考え方を他者と共有し、自己について理解を深め、あらためて自己の勤労観について効果的に表現できる。			
25分	自らのものの見方・感じ方、考え方の変容について自分の言葉で文章に表現する。	活動時間をタイマーで計測して、集中力を持たせるようにする。 学習の前後での勤労観に対する変化や気づきなどを中心として書くように助言する。	(ウ) ワークシート
まとめ 7分	パートナーの文章で印象に残ったことを互いに伝え合う。  本時の学習内容の振り返りを行う。	他者と共有できたことをアウトプットとしてキーワードを一語書かせる。	(ア) 学習ログシート

時	学習内容 (指導内容)	評価規準		
		関心・意欲・態度 (ア)	書くこと (ウ)	知識・理解 (オ)
1	自らの勤労観について考えを持つ。	学習前の自らの勤労観について考える。	筆者のいう「ものづくり」について理解できる。	新出漢字を理解する。
2	筆者のいう「働くこと」について理解できる。	自らの目標設定をして授業に取り組んでいる。	筆者のいう「楽に働くこと」と「楽しく働くこと」について理解できる。	薬師寺や和釘などについて調べたことを互いに発表し、相手に分かりやすく説明できる。
3	筆者の引用した二人の作品を読み、ものの見方を深める。	自らの目標設定をして授業に取り組んでいる。	文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。	
4	自らが目標としている職業に繋がる本を探して紹介する。	関連する書籍を探し、紹介する準備をしている。		
5 本時	働くことに対する自らの勤労観についてひと言にまとめる。		働くことに対して自らの答えを模索し、文章や言葉で表現している。	自らの勤労観について理解する。

# 校内授業研修会（国語） 研究協議記録

国語科 安保 美沙

平成30年10月16日（火）指導主事訪問 国語部会 記録まとめ

授業者 高橋 可奈子先生 司会 奈良 美沙子先生

## 1. 授業に関しての感想・質疑応答

（その他、普段の授業における「振り返り」全般について話題にした）

### ・赤坂俊彦先生

本日の目標に対して、自分の目標を設定して、生徒はその目標を意識して達成しようと取り組んでいて、1時間の授業での変容を感じられるようになっていた。たまたま手元に渡った四人分の資料の質によって共有の仕方も違ってくる点がネックだが、気づきを全員の共有項目として全員に黒板に書かせても良いと思う。他者の考えによって、自己の変容を感じ、気づきを書かせている。ちなみに理科では、次にどのようなことを知りたいかについて項目増やし書かせている。

### ・佐藤俊先生

授業で用いた「ログシート」がよい。評価や内容が一枚に集約され、8時間分が手元に残る。授業の内容をログのアウトプットを使って言葉でまとめるのもいい。感想に終始せず、今日学んだことは何かという事が記入出来るところが良い。板書では、目標の要点に傍線を付けたことで、さらに取り組みが見える。他者の意見も発表ではなく、文章表現として読み取るところが良かった。

### ・高橋理先生

ねらいの傍線引きがキーワードとして繋がった点が良かった。黒板に授業者がメモした、「いいとこさがし」という言葉が内容をとても分かりやすく表していて良かった。学習シート内にある構成が、全体の見通しをもたせることにつながっていた。自分で目標を立てて学習に臨む点、教科書で勤労観について教える点も良かった。一文で振り返りを終える人もいるが、そういう人にはどう指導するのか。5W1Hを意識して書かせるように指導してみてもいいかもしれない。

### ・奈良美沙子先生

気づきや深まりなどがあった。自分の文章を深めて書き直し、アドバイスで深めるという作業は進路活動でも対応できる。

・安保美沙先生

ログシートを1年生でも使用中。今後の授業でどのように評価に繋げていくのかについて模索中である。これだけ書いたのだから、成果として手元に残しておく工夫もしたい。本時の内容で勤労観について扱ったため、進路関係のポートフォリオとしても使えるものとなるのではないか。

・齊藤祐一郎先生

化学でも振り返りシートを書かせている。感想タイプのため感想を書ける者と書けない者にわかれてしまう点が悩みである。

### 3. 指導・助言

#### (1) 中学校指導主事より

客観的に文章が書けていた。書けるのは普段からの指導が物を言う。生徒達の文章は自分の意見を書いていた。他者に共感はするが、流されていないところが良かった。自己の中にある価値観を入れて書くや、他者の良いところを入れて検証するなど、次の学びにつながるような学びを目指して欲しい。

#### (2) 櫻田指導主事より

中堅研の授業研修も9月3日に秋田南高校にて行った。パワフルで授業の工夫もなされしており、活発な意見交換が出来た。いずれも花輪高校が組織で授業改善に取り組んでいる成果だと感じる。いいと思ったことを積極的に取り入れて授業ができている。今回の授業を見ても、生徒が素晴らしい、鍛えていると感じる。生徒に力を付けさせたいという先生方の思いが伝わってくる。

良かった点は、授業が1時間で完結していた点。研究授業となると欲張って時間を超過してしまうことが多く見受けられるが、最後まで行って振り返りの時間の確保が出来ていた。生徒の動かし方をみても普段からの姿が見えてくる。

提示する材料の準備・精選には工夫をする。生徒も相互の考え方や教科書の例を読み、自分の勤労観の深まりを感じたと思うが、深い学びとするには変容に至るところまでもう少し材料が欲しかった。例えば先生自身の勤労観について語るとか、他のデータや新聞記事、社会貢献などを含め言葉や表現を工夫させる意味で効果的な負荷をかけて次の学びに繋げていくことも必要である。学年全体でインターンシップに取り組んだときいているからこそ、インターンシップで学んだことを必ず文章内に含めて書くことを条件としたり、教科書や他書の意見から引用した部分を入れたり、前回から表現を変えた所を分かるように書いたりする工夫があると良かった。

# 後期校内授業研修会（地歴公民科）について

地歴公民科 畠山 翔太

## 1 はじめに

後期校内授業研修会では、高校教育課指導主事の勝又貞臣先生をお招きして研究授業を行った。一ヶ月前課題「学力向上に向け、生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりを目指す」に基づき、産業革命を題材にグループワークを取り入れて背景や影響を考えさせることを目標に授業を行った。

## 2 生徒の反応

グループワークが主な活動であったが、個人で考えることを重視し、個人での活動にも時間をかけた。一人ではなかなか考えがまとまらず、グループになった際には互いの疑問などを交わすことができていた。また、思い切って活動を削ったことで、一つ一つの活動にじっくりと取り組むことができていた。一方で、発表を聞きながらメモを取る場面では、聞くことと書くことの同時進行がうまくできない生徒が多く見られた。まとめは「R 80」という、その日の内容を80字でまとめるという方法を取り入れた。内容を理解するだけでなく、それを限られた文字数の中でまとめることで、より理解が深まったと感じた。

## 3 反省・改善点とまとめ

研究協議会では、多くの御意見をいただくことができた。特にグループ活動と個人の活動の連動や、振り返りの仕方についての意見を多くいただいた。また導入についても話が及び、今回は時間を意識して導入に気を配ることができなかったが、協議の中で、ほんの数十秒でも効果的な導入は可能だという意見があり、参考にしたいと感じた。

勝又先生からは、図説以外からの資料を活用することなどを御指導いただいた。特に目標と評価について、生徒の思考を深めさせるためには目標の提示を工夫することや、新学習指導要領にも多く出てくる「追究」を意識すること、それを踏まえての評価基準を作成することを学んだ。たとえ知識を定着させる場面であっても、一方的に流し込まずに、生徒に自分でしっかりととかみ砕かせることで、生徒の中に自分の言葉での歴史の概念が生まれるようにすることが、歴史的思考力につながるとのことであった。

今後、新学習指導要領では新たな科目編成がなされるが、それへの対応は今のうちから進めていかなければならない。歴史の教員としては、自らが歴史を語ることも重要であると感じるが、今後はそれ以上に生徒に考えさせることが求められる。今回の校内授業研修会で学んだことはそのヒントであるので、学んだことを踏まえて、さまざまな手法に積極的に挑戦していきたい。

## 第2学年A組 地理歴史・公民科（世界史A）学習指導案

実施日時：平成30年10月16日（火）6校時  
場 所：2年A組教室  
授業者：畠山 翔太  
教科書：高等学校 世界史A 新訂版（清水書院）

- 1 単元名 第2編 第4章 拡大する欧米の衝撃とゆれるアジア・アフリカ 1節 革命の時代へ
- 2 単元の目標
  - (1) 欧米の諸革命による世界への影響について関心をもち、自らの身近な事象と関連づけることができる。  
(関心・意欲・態度)
  - (2) 諸革命の背景とその後の社会の変容や他地域への影響について、多面的・多角的に考察し、自分の言葉でまとめて表現することができる。(思考・判断・表現)
  - (3) 文献や資料から当時の人々の生活や社会の変化などを適切に読み取り、根拠をもって自らの意見を説明することができる。(資料活用の技能)
  - (4) 18世紀後半における欧米の展開を基礎知識として身につけ、特徴や前後の時代との関係性について理解することができる。(知識・理解)
- 3 指導上の立場
  - ・単元観この単元は、産業革命にはじまり、アメリカ独立革命・フランス革命などの市民革命を経て、欧米諸国が近代化や民主化などを遂げながら大きく変容していく時代について学習する単元である。産業の効率化や民主政治の発展は現代の社会につながるものであり、内容の理解を通して、生徒自身を取り巻く環境との関係性に気づかせることができる。
  - ・生徒観第2学年A組は男子20名、女子13名の、合計33名のクラスである。大半が民間就職及び公務員を志望している。授業に対する意欲や活気があり、聞かれたことに対して発言できる生徒が多い。世界史の内容に関しては苦手意識を持つ生徒が多いが、協力して内容を理解しようと取り組む姿勢がみられる。
  - ・指導観18世紀の後半は世界史における重大な転換点であり、前後の時代がどのように変化したかを理解させることが重要である。また、内容の理解に加え、学習内容を通して労働問題や民主政治の重要性に触れることができる単元でもある。現代社会における労働問題や政治にまつわる話題を取り上げ、他者の意見を取り入れながら自分の意見をもたせることで、自らの生き方やあり方につなげて考えさせることを目標したい。
- 4 単元の計画と評価規準（総時間7時間）
  - (1) 産業革命と一体化する世界・・・2時間（本時2／2）
  - (2) アメリカ独立革命・・・・・・・1時間
  - (3) フランス革命・・・・・・・2時間
  - (4) ナポレオンの大陸支配・・・・1時間
  - (5) ラテンアメリカ諸国の独立・・・1時間

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 資料活用の技能	D 知識・理解
欧米の諸革命がもたらした世界への影響について関心をもち、自らの身近な事象と関連づけて意欲的に学習にすることができる。	諸革命の背景とその後の社会の変容や他地域への影響について、多面的・多角的に考察し、自分の言葉でまとめ、表現することができる。	資料から有用な情報を適切に読み取り、根拠をもって自らの意見を説明することができる。	18世紀後半における欧米の展開を基礎知識として身につけ、その特徴や前後の時代との関係性について理解することができる。

## 5 本時の学習

### ・本時の学習目標

産業革命の影響について資料をもとに理解し、その功罪について自分の意見を表現することができる。

### ・本時のねらい

産業革命がもたらした世界経済の変化や労働問題などに触れることで、産業革命を多面的・多角的にとらえさせたい。また、今後の学習内容へのつながりを持たせるとともに、「働く」という観点から自らの生き方やあり方を考えるひとつの契機としたい。

### ・指導過程 (50 分)

評価の観点 【A】関心・意欲・態度 【B】思考・判断・表現 【C】資料活用の技能 【D】知識・理解

時間	学習内容・活動	指導上の留意点・教師の支援	評価の観点・方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命についての文章を読む。</li> <li>・本時の目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業革命によって人々の暮らしや働き方が大きく変化したことに気付かせる。</li> </ul>	
	<b>産業革命は人々の暮らしをどのように変えたのか考察しよう</b>		
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A～Fのいずれかのワークシートに個人で取り組む。(10分)</li> <li>・同じワークシートに取り組んだグループで内容を確認し、まとめる。(10分)</li> <li>・各グループの発表を聞いて、内容をまとめる。(10分)</li> <li>・目標に対する自分の考えをプリントにまとめる。(5分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを6グループに分け、それぞれA～Fの異なる資料の読み取りに取り組ませる。 A…労働問題 B…労働時間管理の徹底 C…製品の大量生産化 D…交通の変化 E…環境問題 F…都市化の進展</li> <li>・内容は紙に簡潔にまとめさせる。</li> <li>・個人活動で苦労した生徒には、分からぬ点が明らかになるよう問い合わせをする。</li> <li>・K P法を用いて発表させる。</li> <li>・聞く側の生徒にはメモを取るよう指導し、まとめにつなげる。</li> <li>・R 80シートを用いて、80字以内で考えを簡潔にまとめさせる。その際、接続詞の例を提示して、接続詞を必ず使って文章をまとめるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読み取り、自分の言葉でまとめることができる【C】</li> <li>・多面的・多角的に内容をまとめることができる。【B】</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめた内容と次時以降へのつながりを全体で確認する。(5分)</li> <li>・振り返りシートに取り組む(5分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数名の内容を掲示して、意見の違いが出ることに触れさせる。</li> <li>・現代の産業革命と関連付けさせ、自らの生き方やあり方について考えて書くよう指示する。</li> </ul>	

### ・評価の観点

評価の観点	評 価 基 準		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる[A]	おおむね満足できる[B]	
【B】思考・判断・表現	産業革命の影響について多面的・多角的に理解し、自己に結びつけて考えることができる。	産業革命の影響について多面的・多角的にまとめることができる。	個人活動で分からなかった点を明らかにさせ、グループ活動で教え合わせることで理解を深めさせる。

# 校内授業研修会（地歴公民科）記録

地理歴史・公民科 高田 英一

## 1 授業者から（花輪高等学校教諭 畠山 翔太）

- ・産業革命の功罪について、生徒に自分の考えでまとめさせたいという考え方で本時の授業を設定した。振り返りシートの内容は、内容からは離れるかもしれないが、就職クラスであることから敢えて設定した。
- ・Dのプリントで、課題1を入れるのを忘れてしまった。
- ・発表のときに、プロジェクターなどを用いて資料を載せながら発表させれば良かったかもしれない。時間がかかると思って行わなかったが、あっさりとした発表になってしまったため普段から慣れさせておく必要がある。
- ・R80は以前にも実施してみたが、普段から苦労する生徒も多い。今回は多くの情報を基に産業革命の功罪それぞれを書いている生徒が多かったようである。評価Bにあたる生徒がかなりいて、もう少し時間をとれば評価Aに到達させられた。
- ・普段は発表まで至らず、黒板に書かせて終わるときが多い。そのあたりについて先生方からアドバイスをいただきたい。

## 2 授業に関しての感想・質疑応答（司会 花輪高等学校教諭 佐藤 敦史）

### （1）参観者から

#### ①武石 智和（花輪高等学校教諭）

- ・一つのテーマを6つに分けて扱うという試みで教材研究が大変だったと思う。ただ、一つ一つが深い内容なので、それをどう扱っていくかが課題ではないか。
- ・生徒同士での会話の中で発展的な内容が出てくれば良いが、まだ与えられた情報だけで考えているようだったので、これも今後の課題ではないか。

#### ②渡部 均（花輪高等学校教諭）

- ・テーマが6つだから6班にしたのか、6班だから6テーマなのか。6人だと一人一人の意見を言うときに時間がかかるかっているように思えた。  
→（授業者・畠山）6つの班に分けて行おうと考えての設定であった。

#### ③大森 敬一（花輪高等学校教諭兼教育専門監）

- ・グループ活動が行われていたが、個人で考える活動もあったので良かった。生徒に書かせて黒板に貼る場面も参考になった。

#### ④山口 正明（花輪高等学校教諭）

- ・教材研究の大変さが感じられた。資料をしっかりと準備した分、教員が多くを語らず生徒が主体的に活動しているように見えた。
- ・時間が足りない部分もあったと思うが、展開の仕方（学習形態の変化）もよかったです。
- ・R80も生徒はよくまとめていたように思う。良い活動であった。

⑤浅利 優一（花輪高等学校臨時実習助手）

- ・発表もしっかりと行われており、振り返りシートにも生徒はよく取り組んでいた。普段の授業の成果が出ていたのではないか。

⑥岡田 朋和（花輪高等学校教諭）

- ・個人の活動からグループの活動に移り、また個人の活動に戻るという流れができていた。グループだと発言しない生徒がいることもあるが、しっかりと意見交換をしながら行っていたので、クラスの雰囲気も良い印象を受けた。
- ・R 80 は、2文にするという条件をつけることでしっかりと論理的に考えないといけない活動であるため、非常に参考になった。
- ・説明を聞いたり書いたりする活動を同時にやっていた生徒がいたので、そこをしっかりと区別しながらできるような指示をした方が良いのではないか。

⑦戸崎 孝則（花輪高等学校教諭）

- ・産業革命を6つのテーマに分けていたが、それはどのような考え方からだったのだろうか。  
→（畠山）産業革命の良い面と悪い面を入れたかった。また、どこに目をつけてまとめるかという部分も全体で共有したかったというねらいもある。

## （2）協議

①今回の授業について

- ・（佐藤）導入についてはどのように考えているか。  
→（畠山）写真などを用いる方法もあったと思うが、導入に時間をかけるよりも早く中身に入りたいという気持ちで、今回は文章を読ませるという内容を導入とした。ただ、生徒の興味をひく意味では、実物の利用なども含めて今後はもっと工夫していきたい。
- ・（武石）今回のプリントは、どのように生徒に還元していく予定か。  
→（畠山）授業の内容と、文章の表現力に関する部分をチェックして生徒に返却したい。
- ・（戸崎）普段の自分の授業では、その授業で行った内容に関する問題を解かせるなどという活動を行っているが、「考え方」という振り返りは面白い。他の授業の振り返りについて聞いてみたい。  
→（畠山）いつもあまり実施しないが、今回は考えさせたい内容があったため取り入れた。
- ・（畠山）今回の生徒の発表内容は、参観者から見てどの程度であったと感じているか。  
→（佐藤）例えば、前半に良い面をまとめて、後半に悪い面をまとめるなど、今回であれば資料の順番を工夫することで生徒も分かりやすくなるのではないか。そうすると、プラス面とマイナス面のそれぞれを補完し合う効果も出てくるのではないか。
- ・（佐藤）指導案には「R 80 を何人かの生徒に指名して」とあるが、行わなかったのはなぜか。  
→（畠山）行いたかったが、取り組み状況にあまりにも差がみられたので、発表させずに振り返りシートを配付した。

②授業における「振り返り」について

- ・（山口）振り返りとして、自分の取り組み状況をしっかりと把握できている生徒は次にも向かえ

ると考える。ただ、それを発表させるところには至っていないのが現状である。

- ・(岡田) 内容をまとめることはできるが、次に向かわせるということに関しては難しい。
- ・(大森) 次の授業で扱う内容について、「こういうことをやるので調べてきて」というような、宿題のようなものを示すことも一つの方法ではないか。
- ・(武石) 授業の最後に、次の時間の「予告編」のような時間をとることもできるのではないか。その上で、次の授業の冒頭で生徒に聞いてみると「テレビで見た」などの反応が返ってくることもある。それは次に向かっていることになるのではないか。  
→ (佐藤) ほんの少し(数十秒)などの時間で取り入れられる、効果的な方法ではないか。
- ・(大森) 映像を導入に用いることなども効果的だが、そういった活動を行うには時間が足りないのも確かである。
- ・(畠山) その時間の振り返りはできても、次の時間につながっているのだという実感を生徒に持たせるのは非常に難しい。歴史は、今やっていることが次の時代につながっているということを意識させやすい科目だと思う。一言付け加えるだけでも取り入れていきたい。

#### 4 指導助言(高校教育課指導主事 勝又 貞臣)

- ・本時のねらいについて、産業革命を多面的・多角的に捉えざるといいう点で、6つのテーマを設定したのは良かった。ただ、図説以外の資料もあればさらに良かった。導入の資料も「参考書」ではなく、実物や学説書などを用いても良かったのではないか。また同じテーマを扱う班が複数あっても良かったのではないか。ベクトルが少し開いている方が、ぐんと矢印が伸びるし、反対方向だと視野が広がる。
- ・歴史は暗記というイメージもあるが、そうではなく、とにかく考えさせる内容であった。
- ・「最後は個に返す」という方法も良かった。
- ・研究会を、授業場所で黒板を残したまま行うことも効果的である(次回の参考として)
- ・「目標」が「産業革命は～考察しよう」としたときに、授業後の振り返りでどう評価するか。どこまで考察したか、深めたかということが大事である。今回であれば「～どのように変えたのか」という疑問形で終わらせた方が効果的でないか。地歴公民科では、新指導要領でも「追究」という言葉が多く出てくる。疑問形で提示すると生徒は「そもそも産業革命とは何だろう」という新たな疑問をもつ。そこから「自由主義」と内容に結び付けられていれば今日は成功である。
- ・深めないと地歴の授業にならない。まとめるだけでは足りない。(生煮えにしない、煮込む) 少し足りないときのスパイスが先生の一言。次につなげる前に「今」しっかりと深める(煮込む)ということを重視してもらいたい。
- ・知識を定着させる場面でも、流し込まずに、生徒に自分でしっかりと噛みくだかせる。一問一答であっても「何でそう思う?」と聞き返すこともある。そうすることで、生徒が自分の言葉で歴史を語り概念化することができる。それが歴史的思考力につながる。
- ・『歴史的思考力を育てる』(山川出版社)歴史的思考力を育てることで、その時代を分析することができる。それが、現代の主権者教育にもつながる。

第28回東北大学教育フォーラム  
「主体性」とは何だろうか  
—大学入試における評価とその限界への挑戦—

氏名 黒澤 恵一

1. 概要

(1) 期日 平成30年5月21日(月) 13:00~17:00

(2) 会場 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

(3) 主催 東北大学高度教養教育・学生支援機構

(4) プログラム

開会 開会の辞 東北大学学長 大野 英男 氏

基調講演 「主体性評価」にどのように向き合うか～地方国立大学の立場から～  
佐賀大学アドミッションセンター教授 西郡 大 氏

現状報告1 目に見える「積極性」は主体性なのか？～地方に生きる高校生の現実  
青森県田名部高等学校教諭 千葉 栄美 氏

現状報告2 四国の進学校で生徒の「主体的」な活動を考える  
香川県立観音寺第一高等学校教諭 石井 裕基 氏

現状報告3 開成における生徒の主体性

開成中学・高等学校教諭 有山 智雄 氏

現状報告4 東北大学AO入試における主体性評価の現状と課題  
東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授 宮本 友弘 氏

討議

閉会 閉会の辞 東北大学理事 滝澤 博胤 氏

(5) 主旨

平成19年の学校教育法改正によっていわゆる「学力の3大要素」が法制化された。今般の大学入試改革ではこの3要素を「多面的・総合的」に評価する多様な取り組みが大学に求められている。3要素とは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を指す。中でも、最も悩ませていることが第3の「主体性」に対する評価と思われる。この「主体性」とは何を指すのか、何を評価指標とすべきなのか、入学者選抜でその評価が可能なのか、可能だとして「主体性」を評価することは教育的に何をもたらすのか、これらの事案については、手探りの状態である。平成32年度の大学入試共通テストを機に入学者選抜において「主体性」評価のためのこうした資料や方法の活用が改めて大学側に要請され、各大学においてもその具体的な在り方の模索が始まっている。

このフォーラムでは、この「主体性」をテーマとした。まずは、地方国立大学側の立場から目に見える入試改革の中心を担う西群大教授の講演を拝聴した。次に、3名の高校関係者からそれぞれの立場からの現状報告があった。それを受け、AO入試拡大方針を中心とした東北大学の入試改革の展望の中で「主体性」の評価をどのように考えているかについて報告があった。

2. フォーラムの内容

(1) 個人認識としての「主体性」

①個人個人の主体性認識は多様である。

- ・評価する人、評価する分野、背景などの違いによって「主体性」の捉え方は異なるものと考えられる
- ・捉えることが難しい「主体性」について、さらにその程度を数値化して比較することは、もっと難しい。

・しかし、「学力の3要素」の1つとして、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価することが求められている。

→どのように向き合うか。

## (2) 高校と大学での主体的行動の捉え方

### ①高校教員が考える“探究活動”における主体的だと考えられる行動の例

- ・学外の人たちへのコンタクト、実際の連絡やインタビューの実施等
- ・授業外の自主的な活動
- ・生徒自身によるテーマ設定
- ・課題研究のプロセスを生徒自身が常に臨機応変に変更する
- ・他者と積極的に意見交換する
- ・発表の場において質疑応答を適切にこなすことができる

### ②大学教員が考える“正課教育”における主体的だと考えられる行動の例

- ・学生が課題に対して、他の学生と進んで議論している
- ・質問に来る
- ・指示していない課題に取り組んだとき
- ・実験計画を提案してきたとき
- ・学外での企画に参加する

## (3) 主体性評価へのアプローチ

### ①その1 プロセス重視の立場からの評価

- ・どのように学んだか
  - ・どのように困難を克服したか
- これら学びの過程を蓄積すること（ポートフォリオ）で評価をする

#### ■書類審査、面接試験、

パフォーマンステスト⇒評価コストは高い。限られた受験者を想定。

◆課題

・評価にかける時間が膨大

・適切なループリック作成が必要

### ②その2 行動主義的立場からの評価

- ・主体的な行動による最終的な成果や実績のみによって評価をする

#### ■書類審査、面接試験⇒ 評価コストは最小限。多数の受験者評価も想定

◆課題

・異なる分野の活動実績の比較

・本人の関与の真偽、程度の度合い

⇒ ①と②では、どちらか一方が良いとはいえない。

## (4) 評価

### ①信頼性の高い項目と低い項目の存在

ある大学のAO入試における面接者の評価の一一致率（ループリック使用）

<専門的な関心に関する項目> 一定の一一致率：50%～80%程度

<意欲・態度に関する項目> 低い一致率：10%以下

⇒ループリックの構造化の強化

（面接試験であれば）面接者によって個別に工夫される展開や評価の視点を

一定の枠組みに押し込めてしまう危惧がある

### ②構造化（ルール）した評価の例

主体性【自ら明確な意思を持ち、積極的に行動しようとする姿勢】

評価1点…周囲に依存しており、物事に対する当事者意識が希薄である

評価3点…ある程度自らの考えで行動している。周囲の状況に流されない

評価5点…明確な意思を持ち、当事者意識高く行動している。周囲を巻き込む

⇒このように具体的な行動を基に評価基準を作成

・せいぜい4段階から5段階評価が現実的

・主体性評価の公平性と納得性の確保が求められる

## (5) 入試での評価とは別に考えておくべき点

### ①実際の評価案 共通テスト500点+個別学力検査400点+主体性100点

⇒主体性評価により影響を受けるのはボーダー層のみで全体としてみれば限定的

### ②主体性があると評価した学生が、入学後に本当に主体性があるかどうかを検証することは重要である（評価の妥当性を検証）。

しかし、他の能力や資質（例：「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」）と主体性の相関関係が強いということが明らかになった場合、主体性を直接評価する必然性がなくなり、学力検査等の得点で「主体性」を十分測れるということになる。

# 第12回キャリア教育推進フォーラムに参加して

国語科 安保 美沙

平成30年8月17日(金) 産業能率大学 自由が丘キャンパス

## 1. はじめに

花輪高校ではアクティブラーニング型の授業に全教員が取り組んでおり、教員研修や相互の授業参観を通じて生徒の主体的な学習を促す取り組みを行っている。学校全体での取り組みに貢献できるよう、キャリア教育の中でアクティブラーニングがどのような位置づけになっているか再度確認し、「主体的・対話的で深い学び」のねらいを理解した上で実践に繋げられるよう、意識を高めたいと考えた。また、全国の教員や教育関係者と交流する中で自分自身の見地を広げたいと考え、本研修に参加した。

## 2. 研修内容

(1) 講演「やってみなきやわかんないっしょ!」 講師 ビリギャル 小林さやか氏

自身の大学入試経験が書籍・映画化された「ビリギャル」のモデル・小林氏より。学びの動機付けには周囲のはたらきかけや目標の受容が大切であることを再度学んだ。

(2) 講演「なぜ高校で授業改革が進まないのか? ~高校現場と大学教育をつなぐ~」

講師 一般社団法人 大学イノベーション研究所 所長 山内太地氏

いま社会で求められている力を教育現場が正しく認識できているか検証する必要がある。そうすることで「能動的な学習」が重要視される意義が初めて理解できる。AIの発達に伴う労働市場の変遷を意識し、そのような社会で「人間ならではの価値」を獲得するためにも、主体的に考え、行動する力は大いに重要であると痛感した。

(3) 授業研究ワークショップ(国語)

講師 奈良女子大学附属中等教育学校 二田貴広先生

文学教材を扱った実際の授業の一部再現により、学習者の立場から「深い学び」に至る展開を体験した。「深い学び」の出発地点となるのは、自ら発見した問い合わせ・疑問に他ならない。そうかといって、生徒の発見を手放して待っていて良いかというともちろんそうではなく、問い合わせの発見に至るまで手助けすることがこれから教員に求められる力である。違和感を感じ取る、何かを不思議に思うためには、基礎的な知識や教養がなくてはならない。また、見付けた問い合わせや疑問を「問い合わせとして持つていいものである」と受容する場を教室内に作るのも教師の重要な役目である。そのような「アクティブラーニング」の大前提を再度学ぶことができた。

(4) 講演「これからキャリア教育のかたち～キャリア教育とアクティブラーニング、探究をつなぐ～」  
講師 法政大学 教授 児美川孝一郎先生

これまで「キャリア教育」がどのような位置づけでどのように扱われてきたかを社会情勢と照らし合わせて検証し、「これからキャリア教育のかたち」について再確認する内容であった。社会の実情に合わせた取り組みであるはずの「キャリア教育」であるものの、方法論や斬新な取り組みといった個々の事案ばかりが取り沙汰されるようになった結果、キャリア教育本来の意義や目的が見失われているというのは、常々話題となっていることである。本講演を聴き、キャリア教育本来の位置づけや意義を再確認することができた。

### 3. まとめ

これから社会で生きていく生徒を育てていくためには、今現在のみならずその先の社会状況や世界情勢に対して、我々教員自身が常にアンテナを高くしておく必要があると痛感した。なぜ「主体的・対話的で深い学び」が求められるのかを、それぞれの教員が理解した上で各教科の指導に反映させない限り、実践の評価を次に活かすことができないということを常に意識してみたい。山内先生は講話の中で繰り返し「学問の『絶対視』を疑う」ということを強調されていた。「〇〇をしていれば学力は高まる」という鉄則は「やらされる勉強」の域を出ておらず、そこに生徒の主体的な学びがない限りそれは生徒の生きていく力にはならない。そもそも、社会で求められている力は何であるか、それを身に付けるためにはどのような手段があるか考えられないような生徒では、社会に出ても「使われる」側に終始してしまう。そのことを教員側が理解し、生徒自身の自己管理能力の伸長やマルチスキル獲得を手助けする工夫を講じなければならない。

また、質疑応答の中で児美川先生が「(先生自身の) 理想はキャリア教育という言葉がなくなること」と仰っていたが、同感である。何か特別なことをイベント的にすることだけがキャリア教育なのではなく、普段の授業、HR活動や特別活動の時間全ての時間にキャリア教育のチャンスはあるということ、生徒が社会で生きていく力を身に付けるのを大学へ先延ばしにせず、高校三年間で身に付けられるようそれぞれの教員が意識していくことが今後の大きな課題であると感じた。

初めの小林氏の講演の中でも繰り返されたが、「ビリギャル」のような快挙の裏には、高すぎるようと思われる目標でも受容し、やる気の芽を安易に摘まない身近な人物の存在があったことも、生徒を支える立場でもある我々が忘れてはならない視点である。小林氏の例が全ての生徒に当てはまるわけではないが、自己目標の曖昧だった生徒であればなおさら、見付けた目標を頭ごなしに否定するのではなく、一度受容した上で社会との整合性や生徒自身との適正との兼ね合いを見定め、生徒自身が決めた目標に向かっているという意識を失わせないことが大切であると学んだ。

# 第12回キャリア教育推進フォーラムに参加して

数学科 佐藤 俊

平成30年8月17日（金）産業能率大学 自由が丘キャンパス

## 1. はじめに

今年度花輪高校に赴任して、アクティブラーニング型の授業について考えることが多くなった。アクティブラーニング型の授業を行う最大の目的は、授業を単なる知識獲得だけではなく、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する機会にすることである。こうしたアクティブラーニング型授業の特色をキャリア教育・探究活動に関連づけ効果的に実践していくため、これらのつながりについて学び考えたいと考え、今回の研修に参加した。

## 2. 研修内容

今回の研修は、4つのセッションに分かれて講演やワークショップを行った。

①講演「やってみなきゃわかんないっしょ！！」 小林さやか氏

通称「ビリギャル」の主人公、小林さやか氏による、進路決定や周囲の支援に関する講演であった。進路指導に際して、生徒のモチベーションを發揮・持続させるために、どのような働きかけをしたらよいか、自身の大学受験の経験と教育相談・コーチングの手法を織り交ぜて紹介していた。最も強調されていたのは、生徒を管理することに傾倒し過ぎてはならないこと、考え方や思いを受容し自己肯定力高めることが、生徒が大きな力を発揮する助けになること、であった。

②講演「なぜ高校で授業改革は進まないのか？～高校現場と大学教育をつなぐ～」 山村太地氏

大きく分けて2つの観点からの講演であった。1つは高校での授業改革についてである。具体的な流れとしては、高校教育の現状と課題に関する問題提起、生徒が能動的に学ぶための授業改革の方針と先進的な取り組みの紹介、という構成であった。

2点目は、これからの中の大学・職業選択についてである。すでに始まっている職業淘汰に対しき生き残るため、マルチスキルの獲得、仕事への高い付加価値の付与、人への伝達力(芸人)等が重要になってくる、という内容であった。

③授業(教材)ワークショップ 大村勝久氏

大学の入試問題を題材とし、生徒の深い学びを引き出すための授業構成や、指導法、教材の作成についてグループで考えるものであった。キャリア教育の視点から、数学を通して生徒たちがどんな力を身につけることができるのかを意識することが、教科を通じたキャリア教育を行う第一歩であるとのことであった。また、グループ毎に模造紙に話し合いの結果をまとめ、ポスター発表も行い、他のグループの考え方や授業の工夫を取り入れることもできた。

④講演「これからのキャリア教育のかたち～キャリア教育とアクティブラーニング探究をつなぐ～」  
児美川孝一郎氏

キャリア教育の変遷をたどりながらこれまでの問題点や課題を考え、今後どのようにキャリア教育を進めることが求められるかを紹介していた。これまでのキャリア教育での問題として指摘されたのが、なりたい職業探しや将来設計などへ傾倒や、総合的な学習の時間や特別活動などの特定の時間にしか行わないことなどである。これからのキャリア教育の形として、職業観の形成だけに留まらず、キャリア発達のために必要な資質能力を明確にし、なおかつ教科毎の授業を含めた全教育活動を通じてそれらの育成を目指すべきである、とのことであった。

### 3. まとめ

キャリア教育に関する様々な知見、これまでの取り組みと改善の方向について多方向からの視点で示されており、今後の取組や指導法の改善に役立てていけるヒントを、非常に多く取り入れることができた。本研修の狙いとしていた、キャリア教育・探究活動をアクティブラーニング型授業とつなぐ、という点において、非常に多くの学ぶことができたと言える。キャリア教育と聞くと、どうしても仕事探し、企業見学、インターンシップなど、特別に切り取った活動を思い浮かべてしまうが、最も大切にしなければならないことは、変化の激しい社会を生き抜くための資質能力を、日常的な学校生活の中で培うことである。培うべき資質能力の具体的な例としては、答えが一つに定まらない問いに対して自ら答えを見いだしていく力、生涯を通して自ら能動的に新しい知識を獲得できる力、などがあげられる。そして、こうした力を育むための手段こそが、アクティブラーニング、主体的対話的で深い学び、探究活動、といった言葉で表される教育活動なのである。これらの教育活動自体が目的なのではなく、将来必要とされる資質能力の獲得、という目的のための手段であることを常に念頭に置いて、日々の指導に臨みたい。

また、こうした教育活動を進めるにあたっての課題として、生徒・教員・保護者の理解やノウハウといったソフト面、ICT や教材などのハード面の双方に不足があることが挙げられていた。ハード面に関しては、現場側(特に公立高校)は導入を待つことしかできない。今回の研修で活用されたロイロノート(生徒と教師の双方向の情報発信を簡便化するタブレット・スマートフォン向けのシステム)など、有用なツールは続々と誕生しているため、時間とともにそれらが浸透していくだろう、とのことであった。しかしソフト面の充実に関しては、現場側の我々教員が学び、共有し、生徒・保護者へ発信することこそが、最も重要なのではないかと感じた。生涯、新たな知識の獲得をし続けていく姿勢を、教員が先頭に立ち実践することが、生徒の学びの充実に直結するのだ、という思いを今後も心がけていきたいと感じた。